

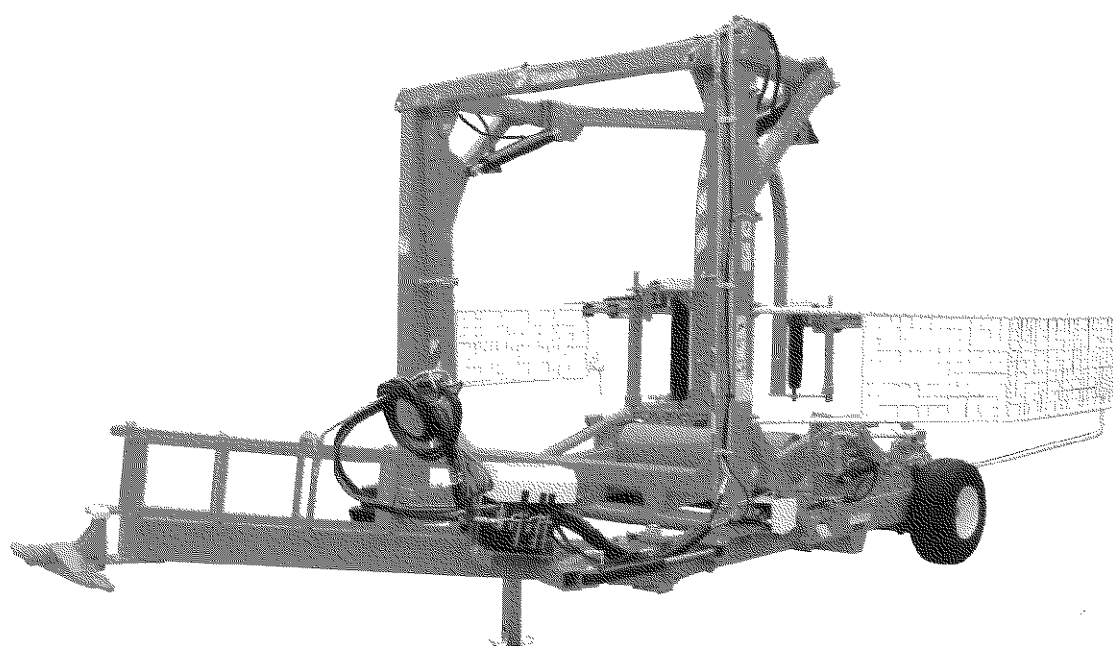
取扱説明書及び部品表

 **Takakita**

フオートラップマシーン

WM1530AX

WM1530AXT



本製品を安全に、また正しくお使いいただくために
必ず本取扱説明書をお読みください。
お読みになった後も大切に保管してください。

株式会社 **タカキタ**

は じ め に

このたびは本製品をお買い上げいただき、ありがとうございました。

この取扱説明書は、フルオートラップマシンの取扱方法と使用上の注意事項について記載してあります。ご使用前には必ず、この取扱説明書を熟知するまでお読みの上、正しくお取扱いいただき最良の状態でご使用ください。

- お読みになったあとも必ず製品に近接して保存してください。
- 製品を貸与または譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡してください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかにお買い上げの販売店または当社にご注文ください。
- 本書は、**注意**として知っておくとお得な製品の性能や、製品自体の損傷防止に関する留意事項を書いています。
- なお、本製品については不断の研究成果を新しい技術として直ちに製品に取り入れておりますので、お手元の製品と本書の内容が一致しない場合もありますので、あらかじめご了承ください。
- ご不明なことやお気付のことがございましたら、お買い上げの販売店または当社にご相談ください。

！ 警 告 サ イ ン

！ 印付きの下記マークは安全上、特に重要な項目ですので、よく読んで必ずお守りください。

！ 危険

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

！ 警告

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

！ 注意

その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。

目 次

 安全に作業するために	1
本製品の使用目的とサービスについて	10
各部の名称とはたらき	11
トラクタへの装着	13
1. ロワーリンクへの装着のしかた	13
2. 油圧ホースの接続	13
3. コントロールボックスの接続	14
運転に必要な装置の取扱い	15
1. コントロールバルブの取扱い	15
2. コントロールボックスの取扱い	15
3. ストレッチブラケットの高さ調整	16
4. $\phi 1300$ 以下ベール時の調整	16
5. リフトローラ停止位置の調整	17
6. テーブル前ローラのバネ調整	17
7. フィルム切断具合の調整	18
8. フィルム格納のしかた	18
9. 安全ガードの取扱い	18
10. グリップカッター・ ナイフ保護カバーの取外し...	19
作業方法	20
1. 作業手順と要点	20
2. 移動から作業への切替え	21
3. フィルムをセットする	21
4. 巻数設定	23
5. 累積ベール表示	25
6. 自動(半自動)作業	26
7. 手動作業	32
8. 作業から移動への切替え	37
9. フィルムの取外し	37
作業前の点検について	38
簡単な手入れと処置	39
1. シェアボルトの交換	39
2. ヒューズの交換	39
3. フィルムの取扱いについて	39
4. タイヤの点検・修理	40
5. 車輪止め	40
6. 各部への注油・グリスアップ	41
7. 長期格納時の手入れ	42
使用上のご注意	43
不調診断	45
付表	47
1. 主要諸元	47
2. 主な消耗部品	47
3. 配線図	48
4. 油圧回路図	49

⚠ 安全に作業するために

取扱説明書と本機に貼ってある⚠ 表示ラベルをよく読み、機械の使い方をよく理解した上で使用してください。また、機械を点検して異常がないかを確認してから使用してください。

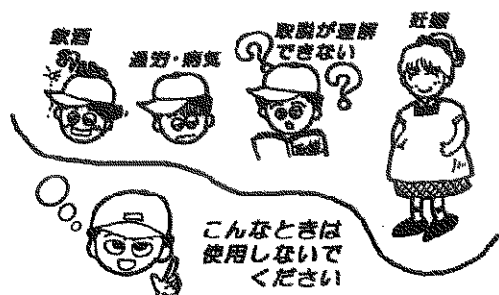
機械を他人に貸すとき、または他人に運転をさせるときは、運転の仕方を教え、本書も貸与し必ず読んでもらってください。

1. 本機を使用するにあたって

(1) 使用する人の条件

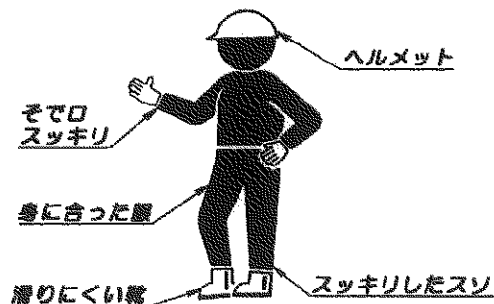
次の項目に該当する場合は本機を使用しないでください。

- 飲酒したとき。
- 過労・病気・薬物の影響・その他の理由により正常な運転ができないとき。
- 妊娠しているとき。
- 取扱方法を熟知していない人。
- 16歳未満の人。



(2) 使用する人の服装

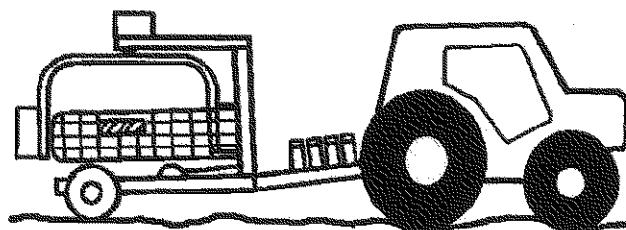
機械に巻き込まれたり、滑って転倒したりする事故を予防するため、首巻き・腰タオルをしないで、ヘルメット・滑り止めの付いた靴を着用し、だぶつきのない作業に適した服装で安全な作業をしてください。



(3) 適応トラクタ以外への装着厳禁

下記の装着条件に合致するトラクタ以外には装着しないでください。

- 適応トラクタ：30～88kW (40～120PS)
- ロワーリンク規格：カテゴリⅠ・Ⅱ
- 電源用バッテリー：DC 12V
- 油圧取出し：複動1系統
20～40ℓ/分

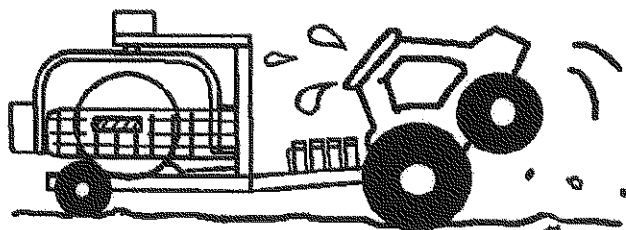


(4) 装着時の前後バランス確認

軽量のトラクタに装着して作業を行う場合には、ヒッチ荷重を確認してください。

トラクタ質量にヒッチ荷重を加えた値の20%以上の荷重が、前輪に作用している必要があります。

もし、不足するときはトラクタ指定のフロントウェイトを取付けて、20%以上確保するか、できなければ装着しないでください。



⚠ 安全に作業するために

(5) バランスウエイトの取付け

トラクタのバランスウエイトは指定された部分に指定されたウエイト以外は取付けしないでください。

(6) 機械の改造厳禁

純正部品や指定以外の部品を取付けしないでください。

また、改造しないでください。



(7) 使用目的以外への使用禁止

ロールベールをラッピングすることを目的として作られた機械です。

他の目的には使用しないでください。

(8) 機械を他人に貸すとき

取扱方法をよく説明して、使用前には『取扱説明書』を必ず読むように指導してください。



2. 点検・整備をしてください

(1) 1年毎の定期点検・整備

整備不良による不具合や事故を防止するために、1年毎に定期点検・整備を受け、機械が最良の状態で作業ができるようにしてください。

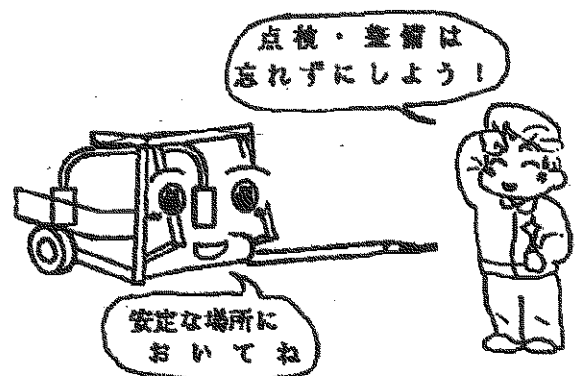


(2) 作業前の点検・整備を忘れずに

ご使用になる前と後には必ず点検・整備を行ってください。

(3) 点検・整備・掃除をするとき

点検・整備・修理・掃除するときは、交通の危険がなく、機械が転倒したり、動いたりしない平坦で安定した場所で、トラクタのエンジンを停止させ、駐車ブレーキまたは車止めをしてから行ってください。



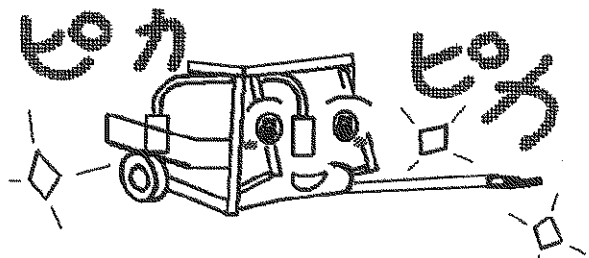
(4) ナイフに注意すること

ナイフ類は、絶対に素手で触れないでください。必ず手袋などの保護具を着用してください。



(5) 機械を常にきれいに

火災予防と性能維持のため、回転部への草などの巻付きやたまりを取り除き、機械を常にきれいにしてください。

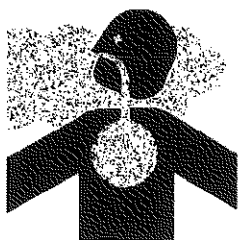


⚠ 安全に作業するために

(6) 排気ガスには十分注意

屋内などでエンジンを始動するときにはエンジンの排気ガスによる一酸化炭素中毒の恐れがあります。

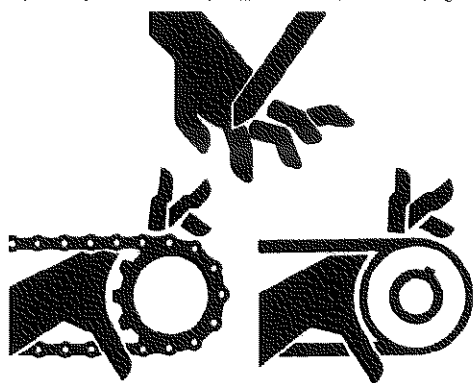
エンジンの始動は、風通しのよい場所で行い、やむをえず屋内で始動する場合には、十分換気を行ってください。



(7) カバー類を必ず取付ける

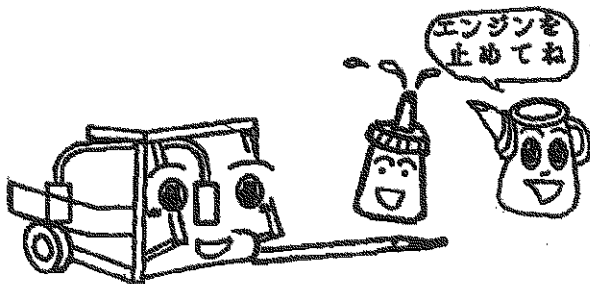
カバー類などの防護装置を取外すときは、必ずエンジンを止めてから行ってください。

また、取外したカバー類は必ず元どおりに取付けてください。守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。



(8) 注油・給油をするときは

エンジンを止め、回転部分が完全に停止してから行ってください。



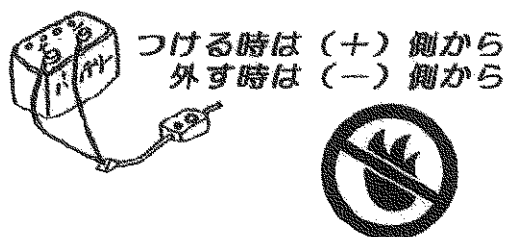
(9) 非常停止スイッチの動作確認を

配線コードの外れなどがないかを点検し、非常停止スイッチを押して油圧モータが停止するかを作業前に必ず確認してください。守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。

(10) コントロールボックスの電源脱・着は

トラクタのバッテリーより電源を取り出します。その取付け方法は(+)側から行ってください。外すときは(-)側から行ってください。逆にすると火花が飛び危険です。

(詳細は本文の『コントロールボックス』の取付けを参照してください。)

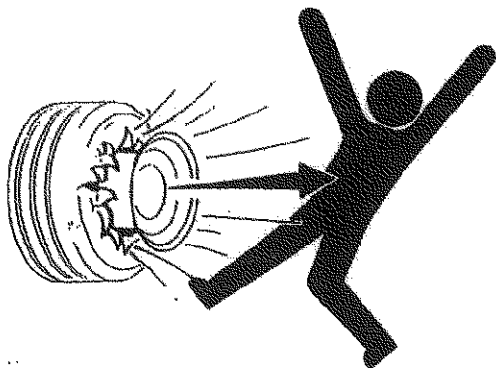


(11) タイヤの点検・修理をするときは

- ① タイヤの空気圧は、規定の空気圧を必ず守ってください。
- ② 空気の入れ過ぎはタイヤ破損の恐れがあり、死傷事故を引き起こす原因になります。
- ③ タイヤに傷があり、その傷がコード(糸)に達している場合は、使用しないでください。
タイヤ破損の恐れがあります。

⚠ 安全に作業するために

- ④タイヤ・チューブ・ホイールなどに関する交換・修理などは十分な整備施設をもち、特別教育を受けた人がいるタイヤショップ等の専門店で依頼してください。



(12) 長期格納するときは

機械を清掃し、回転部及びチェーンには十分注油して、屋内の平坦な場所に車輪止めをして保管してください。コントロールボックスは、トラクタより取り外して屋内の乾燥した場所に保管してください。



3. 作業・移動をするときは

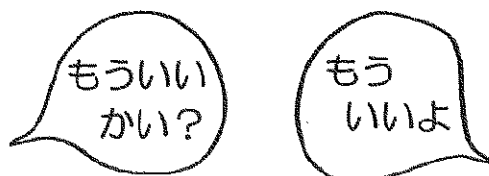
(1) 人や動物を近づけない

特に子供には十分注意し、近づけないようにしてください。



(2) 二人以上で作業するときは

二人以上の共同作業では、お互いに声を掛け合うなどして、安全を確かめ合いながら作業してください。



(3) エンジンを始動するときには

変速レバー及び外部油圧切替レバーを中立にし、周囲の人に合図をして安全を確かめてからエンジンを始動してください。

守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。

安全確認



(4) 急な発進・停止・旋回・スピードの出しすぎ禁止

スピードの出しすぎ、急な発進・停止・旋回は、事故の原因となるだけでなく、機械の寿命も縮めますので行わないでください。

また、起伏の多いほ場や傾斜地は危険です。作業スピードは極力落として作業を行ってください。

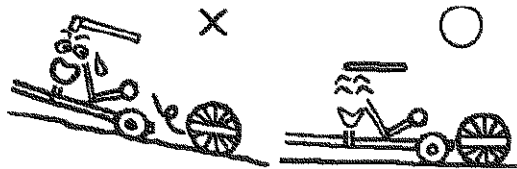
(5) 傾斜地で作業するときは

次のことを必ず守ってください。

- ①斜面の等高線に平行、または斜めに走行すると横転の危険があります。斜面の作業は、必ず等高線に直角方向に走行してください。
- ②傾斜地で旋回するときは、速度を落とし、急ハンドルを切らないでください。高速で旋回すると、転倒する危険があります。

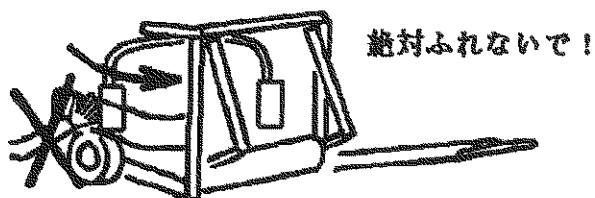
⚠ 安全に作業するために

- ③傾斜地でのボール放出は、谷側にボールが転がって危険です。必ず、平坦地まで移動して、安全な場所で放出してください。



- (6) 回転中のストレッチアームには触れない

回転しているストレッチアームに触れると重傷を負うことがあります。回転中は手や足で絶対に触れないようにしてください。



- (7) 移動及び作業の旋回の際は

トラクタに本機を装着しての移動やほ場での旋回は、必ず3点リンケージでリフトアップしてから行ってください。急旋回は危険ですので行わないでください。

- (8) 移動及び作業の旋回の際は

トラクタに本機を装着して旋回するときは、内輪差が生じるので十分注意してください。急旋回は危険ですので行わないでください。



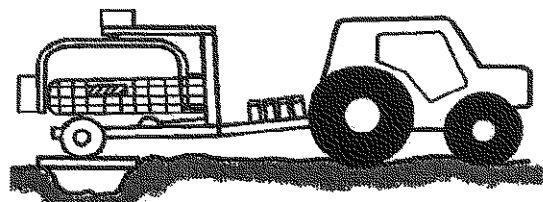
- (9) ストレッチフィルム、シェアボルトの交換や巻き付き草などを取り除くときは

エンジンを必ず止め、回転部が完全に停止してから行ってください。



- (10) 溝や段差を横断したり軟弱な所を通るときは

スリップや転倒による事故を防ぐために、幅・長さ・強度が十分あるスリップしないアユミ板をかけ、最低速度で通ってください。



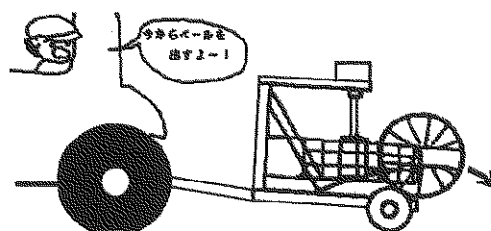
- (11) 作業途中で運転席より離れるときは

平坦な場所に停止し、エンジンを止め、駐車ブレーキを掛け、本作業機側に車止めをしてください。



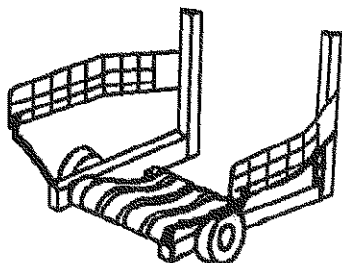
- (12) ラップボールを放出するときは

ラップボールの放出は、後方に人がいないことや、障害物のないことを十分確認し放出距離を考慮して放出してください。



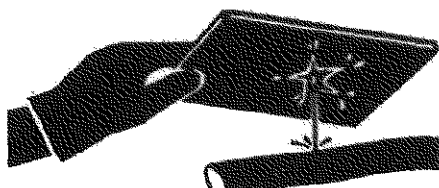
⚠ 安全に作業するために

- (13) ストレッチアームを回すときは
ストレッチガードを必ず左右とも、確実に
固定してください。



- (14) 高圧油に注意してください

- ① 圧力がかかり噴出した油は、皮膚に
浸透する程の力があり、傷害の原因にな
ります。
- ② 高圧油による傷害を防止するために
配管・ホースなどの取り外し前には必ず
残圧を抜いてください。
- ③ 圧力をかける前に配管・ホースなどは
正しく確実に締め付けてください。
- ④ 非常に小さな穴からの油漏れは、ほと
んど目に見えないことがあります。手で
油漏れを探すことは止めてください。必
ず、保護メガネをかけ、紙などを使用し
て調べてください。



- ⑤ 万一、油が皮膚に浸透したときは、
強度のアレルギーを起こす恐れがある
ので、すぐ医師の診療を受けてください。

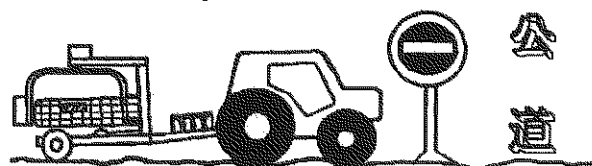


- (15) スタンドを移動位置にする
移動するときは必ずスタンドを上げて
走行してください。

4. 道路走行・輸送するときは

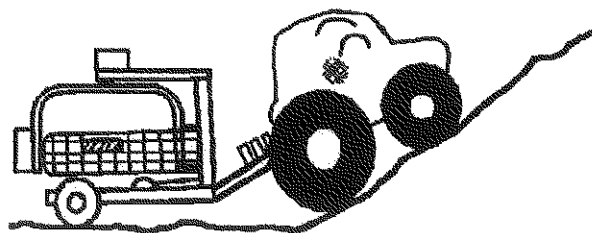
- (1) トラクタに装着しての公道走行禁止

トラクタに本機を装着して公道を走行
すると道路運送車両法に違反します。
トラクタに装着しての走行はしないで
ください。



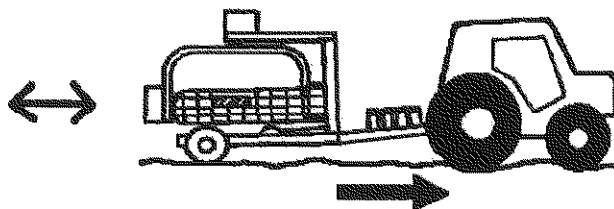
- (2) けん引かんを上げる

特にほ場から出入りする場合には、本機
損傷の恐れがありますので、ローリン
クを上げてください。



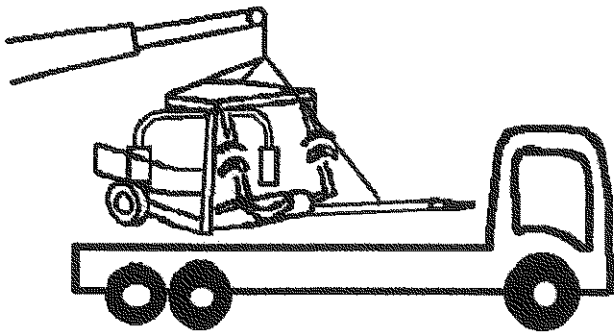
- (3) ガードをたたんでください

ほ場間の移動走行をする場合は、本機損
傷を防止するために、ストレッチアーム
を進行方向に対して前後の位置にして
ガードをたたんで移動してください。



⚠ 安全に作業するために

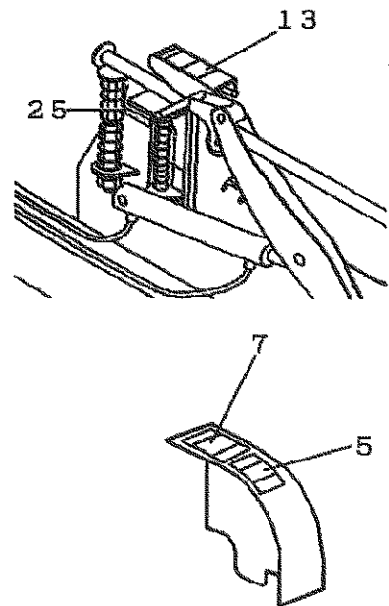
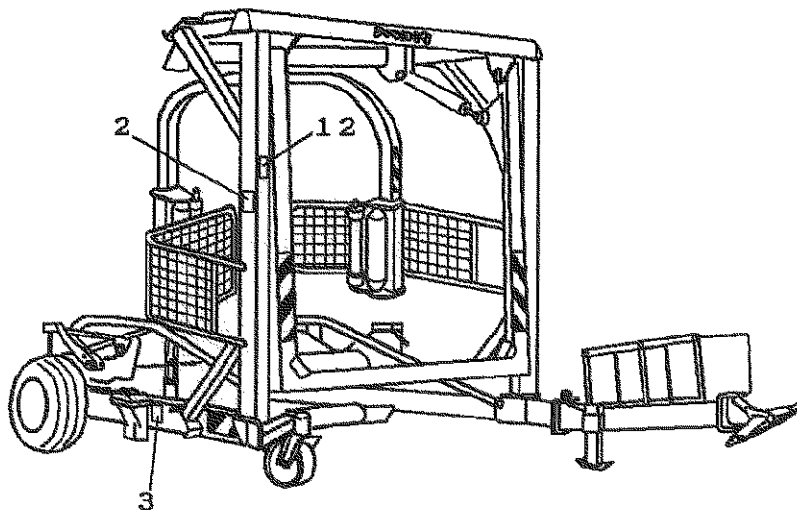
- (4) トラックなどへ積み込み・積降ろしは
平坦な場所でトラックが移動しないようエンジンを止め、サイドブレーキをかけ、車止めをしてください。
積込んだ機械は車止めをし、強度が十分にあるロープで確実に固定してください。



以上、機械の取扱で注意していただく主だった事項を記載しましたが、これ以外にも本文のなかで⚠印をつけて安全上の注意事項を表記しております。

▲ 安全に作業するために

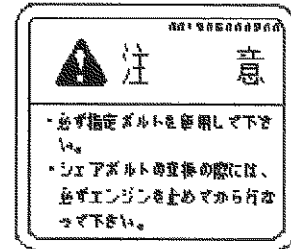
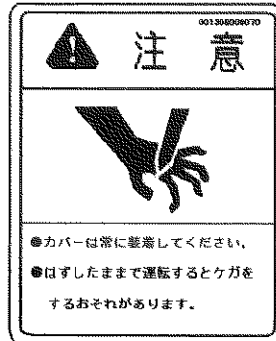
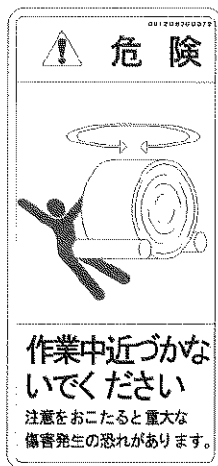
5. 警告ラベルの貼付け位置



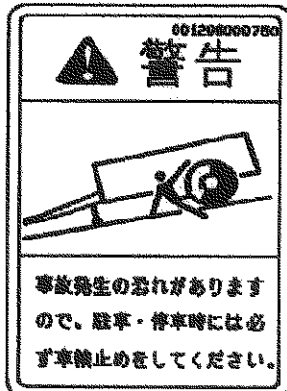
②部品コード 001206000372

⑤部品コード 001306000070

⑦部品コード 001306000200



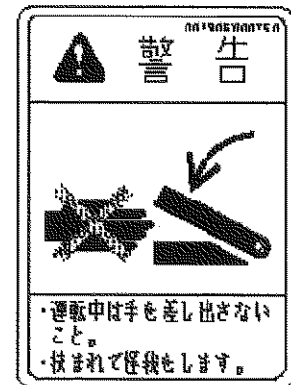
③部品コード 001206000750



⑫部品コード 001306000780



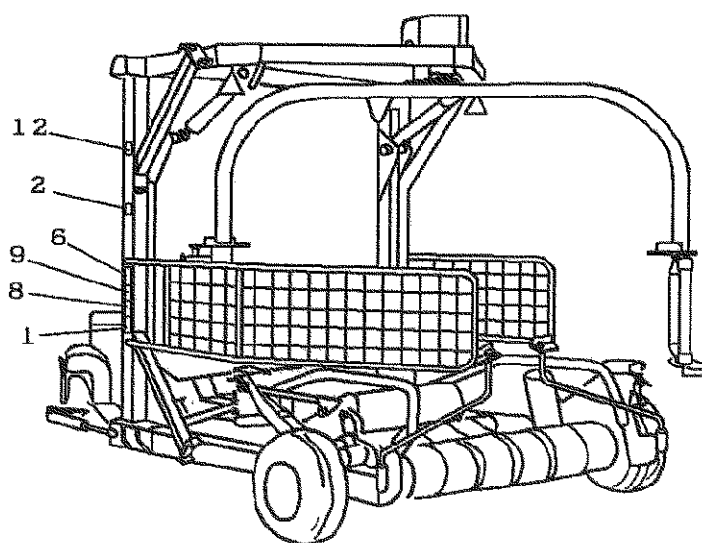
⑬部品コード 001306000790



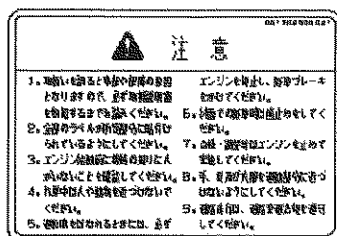
⑮部品コード 001206000561



⚠ 安全に作業するために



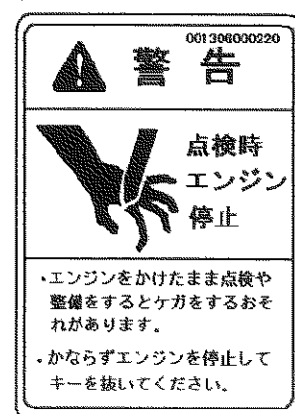
①部品コード 001204500041



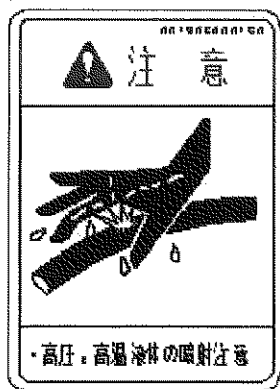
⑧部品コード 001306000210



⑨部品コード 001306000220



⑥部品コード 001306000190



警告ラベルの取扱注意事項

- (1) 警告ラベルはいつもきれいにして傷をつけないように、また汚れている場合、中性洗剤で洗い、軟らかい布で水気を拭いてください。
- (2) 傷ついたり、汚れたり、はがれた場合は、お買い上げの販売店又は当社に注文し、新しいラベルを元の位置に貼ってください。
(ラベルをご注文の際は部品コードをご連絡ください。)
- (3) 警告ラベルが貼ってある部品を交換する場合は、新しいラベルを注文して元の位置に貼ってください。
- (4) 新しいラベルを貼る場合は、汚れを拭き取り、乾いた面に貼ってください。
気泡は隅の方へ押しながら抜いてください。

本製品の使用目的とサービスについて

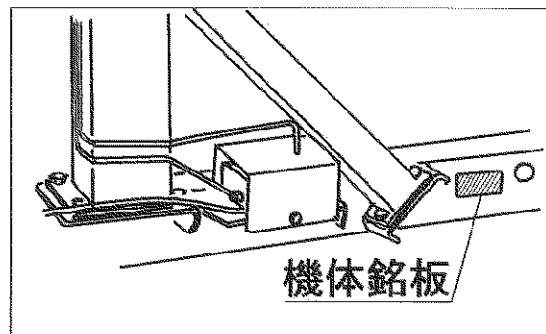
本製品の使用目的について

本製品は、ロールペールのラッピングにご使用ください。
使用目的以外の作業や改造などは、決して行わないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりません。

アフターサービスについて

機械の調子が悪いとき、不調診断に従って点検・処置しても、なお不具合があるときは、お買い上げいただいた販売店、農協、または、お近くの当社営業所までご連絡ください。

(機体銘板貼付け位置図)



【連絡していただきたい内容】

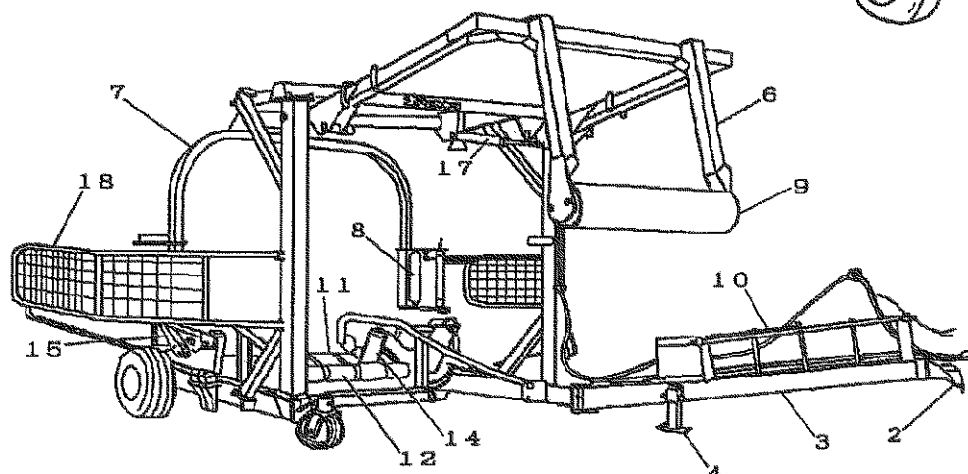
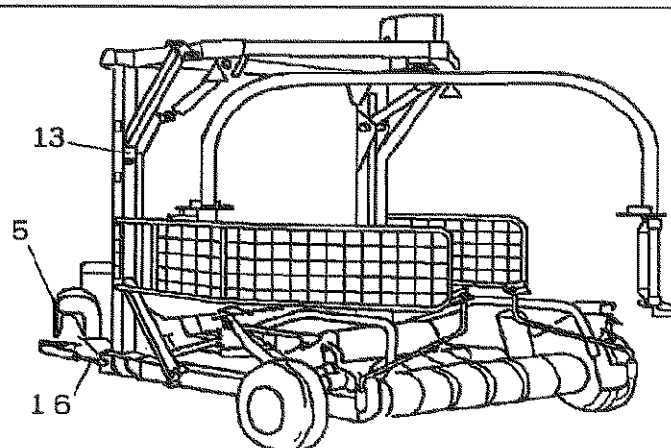
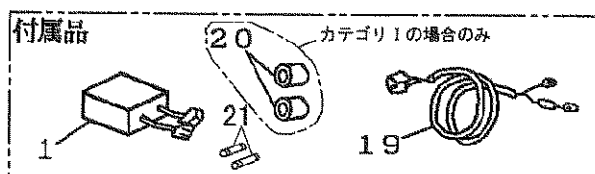
- 品名と型式
- 機体No. (SER-No.)
- ご使用状況は？
(どんな条件でどんな作業をしていたときに)
- どれくらい使用されましたか？
(約〇〇アール、または約〇〇時間使用后)
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しく教えてください。

※機体No.は、上図に示す機体銘板に打刻しております。

【今後参考のため、次の空欄に機体No.などを記入しておいてください。】

品名	フルオートラップマシン		
型式	WM1530AX		
機体No. (SER-No.)			
購入年月日	年	月	日
販売店名	TEL : ()		

各部の名称とはたらき



番号	名 称	は た ら き
1	コントロールボックス	本機の操作を手元で行う（詳細別紙）
2	けん引ヒッチ	トラクタのローワーリンクに連結する
3	けん引かん	本機のオフセット位置を変える
4	スタンド	トラクタとの脱着時、保管時に使用する
5	バルブ操作レバー	本機側で、ストレッチアームなどを回転するレバー
6	リフトアーム	ベールを、テーブルローラに乗せる・及び放出する
7	ストレッチアーム	回転して、フィルムをベールに巻付ける
8	ストレッチブラケット	フィルムをセットする、及びフィルムを引き伸ばす
9	リフトローラ	ベール回転時の補助ローラ
10	フィルムボックス	予備のフィルムを入れておくボックス
11	テーブルローラ	ベールを回転させるローラ
12	ベルト	ベールを回転させる
13	リフトアームセンサ	リフトアームを適正位置に停止させる
14	サイドローラ	ベールの横ずれ防止
15	グリップカッタ	フィルムをつかみ、切断する
16	油圧シリンダ	けん引かんを左右に動かす
17	油圧シリンダ	リフトアームを上下させる
18	安全ガード	ストレッチアーム回転範囲、立入禁止
19	電源コード	バッテリーより電源を取出します
20	カテゴリⅡ用カラー	ローワーリンクがカテゴリⅡのとき使用する （ヒッチカテゴリⅠの場合のみ）
21	予備ヒューズ	コントロールボックス（6 A）、電源コード（30 A）の予備ヒューズ各1ヶ

電源ランプ
点灯の電源ON
消灯の電源OFF

電源スイッチ
押すたびに切替る
電源ON時 : スイッチを1秒以上押すこと
電源OFF時 : スイッチを押して離れたときにOFF

設定スイッチ
自動、手動作業の設定をこのスイッチで行う。

放出スイッチ
スイッチを押している間、リフトローラが後方に動く
ストレッチ回転中は押しても動きません

自動開始スノッチ
スイッチを1度押すと自動巻付けする
自動でないと動きません
巻付スタートランプが点滅していないと動きません

ヒューズ 6A
電源ランプが点灯しない時は切れている可能性があります

リフトローラ上げスイッチ
↑ : スイッチを倒している間、ブザーが鳴りリフトローラが上がる
↓ : スイッチを倒している間、ブザーが鳴りリフトローラが下がり、作業定点で一時停止する
一時停止後、再度押すと進入禁止位置で停止する

リフトアップ
上
下

非常停止スイッチ
押すと全停止します
フィルムが途中でなくなったり、切れなどきはすぐ押してください

自動作業時
巻数設定スイッチ
↑ : 1度押すたびに数が1つ上がる
↓ : 1度押すたびに数が1つ下がる
設定値は「巻付開始スイッチ」を押したときに記憶されます 設定範囲は8~60です

手動作業時
グリッパカッタスノッチ
↑ : 押している間グリッパカッタが上がる
↓ : 押している間グリッパカッタが下がる

巻付回数調整設定
グリッパカッタ

巻積クリアスイッチ
スイッチを押すとベール巻積個数がクリアされ「0」に戻る
電源を切っても「0」にならず、数字は記憶されます

リセット

自動作業
設定
手動作業

自動放出
手動放出

非常停止

WM1530AX

巻付開始
手動
逆転
ストレッチ
正転
巻積クリア

水入れ禁止

ケンインカン右左スイッチ
← : スイッチを倒している間、本機が左側に寄る (トラクタ側)
→ : スイッチを倒している間、本機が右側に寄る (ダンセット)
自動手動とも同じ動きです

ストレッチ正逆スイッチ
正転 : スイッチを押している間、ストレッチアームが正転する
巻数表示数字が1回転に1ずつ上がる
放出することでリセットされ、再度正転スイッチを押すと「0」からスタートする
逆転 : スイッチを押している間、ストレッチアームが逆転する
巻数表示数字は変わらない
自動では動きません
テーブルがダンプリフトの状態にある時は動きません

トラクタへの装着

警告

- トラクタへの本機の装着は、平坦で安定した場所で行ってください。
 - ローワーリンクへの装着はリンケージの動きに十分注意し、2人以上の共同作業では、お互いに声を掛け合うなどして、安全を確かめ合いながら作業してください。
- 以上のことを守らないと障害発生のおそれがあります。

1. ローワーリンクへの装着のしかた

◆ローワーリンクの装着順序

左のローワーリンク、右のローワーリンクの順序で取付けてください。

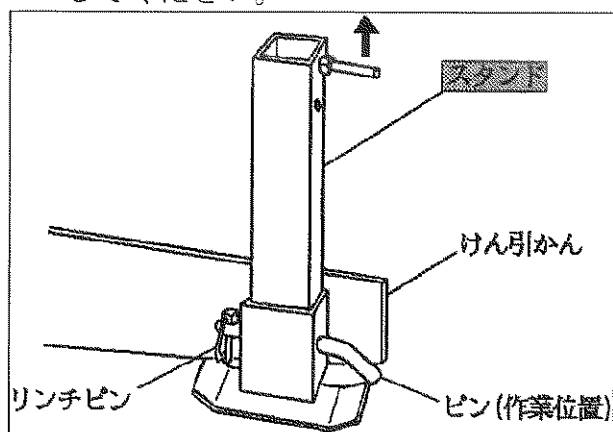
〔カテゴリⅠ仕様の本機に、カテゴリⅡのローワーリンクを装着の場合、付属のカラーを取付けしてください。〕

◆チェックチェーンで横振れ調整

運搬時及び作業時、本機の横振れを防止するために、チェックチェーンでトラクタ中心に本機中心が一致するように左右均等に固定してください。

◆スタンドを上げる

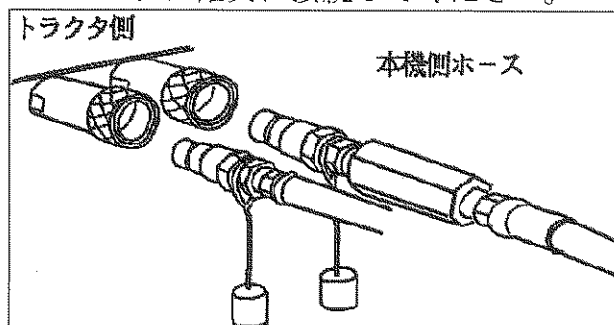
トラクタのローワーリンクを少し上げて、スタンドを持ち上げ作業位置にセットしてください。



2. 油圧ホースの接続

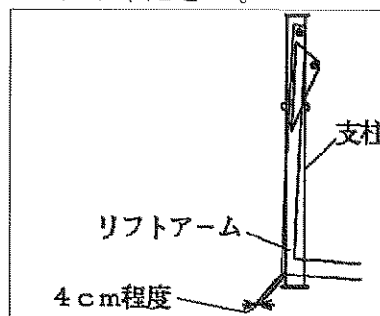
◆接続は残圧を抜いてから

- ①トラクタのエンジンを停止し、トラクタの油圧レバーを動かして残圧を抜いてください。
- ②油圧ホース（2本）をトラクタの複動カプラに確実に接続してください。



◆離脱するときは

リフトアームシリンダの残圧を残さないため、リフトアームを下図程度の位置に止めてください。



注意

- カプラ接続時はカプラ部分をきれいに拭き取り、ゴミなどのない状態で確実に接続してください。
- 〔ゴミ及び不確実な接続は、油圧系統のトラブルの元になります。〕
- 油圧ホースをトラクタから外したときは、必ず付属のダストキャップをカプラに差し込み、傷を付けないようにしてください。

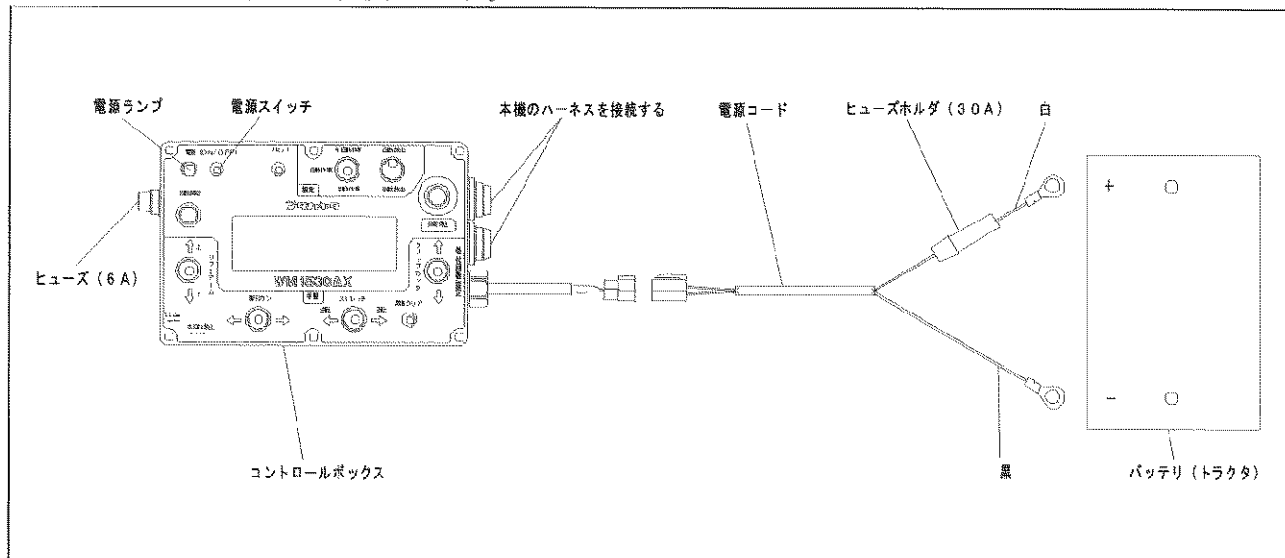
トラクタへの装着

3. コントロールボックスの接続

◆電源はトラクタのバッテリーから取ります

●接続できるバッテリーの電源は、12Vです。

※24Vのバッテリーに接続しないでください。間違えて接続すると、コントロールボックス内部の機器が破損します。



●電源コード

- ・白色線はバッテリーの (+) への接続
- ・黒色線はバッテリーの (-) への接続

注意

(+)、(-) の接続を間違えると、コントロールボックスの電源が入りません。
(電源ランプが点灯しません。)



注意

- 接続の順序は (+) 側から行ってください。
- 取外すときは (-) 側から行ってください。
- 逆にすると、火花が飛び危険です。

◆コントロールボックスの取付け

裏側に永久磁石がついています。操作しやすい位置に吸着してください。

◆配線の接続

電源コードのハーネスをコントロールボックスに接続してください。

◆電源ONの確認

電源をONにするときは、電源スイッチを押して電源をONにします。電源ランプが点灯するのを確認してください。

電源をONからOFFにするときは、再度電源スイッチを押して電源OFF

となります。電源ランプが消灯するのを確認してください。

電源が入らないときは、コントロールボックス内のヒューズ、電源コードのヒューズが切れていないか、バッテリーの (+) と (-) が逆になっていないか、コネクタがきちんと差し込まれているかを確認してください。

長期間使用すると、電源コードのヒューズ部分が腐食して電気が流れない場合があります。

グリスの塗付をお勧めします。

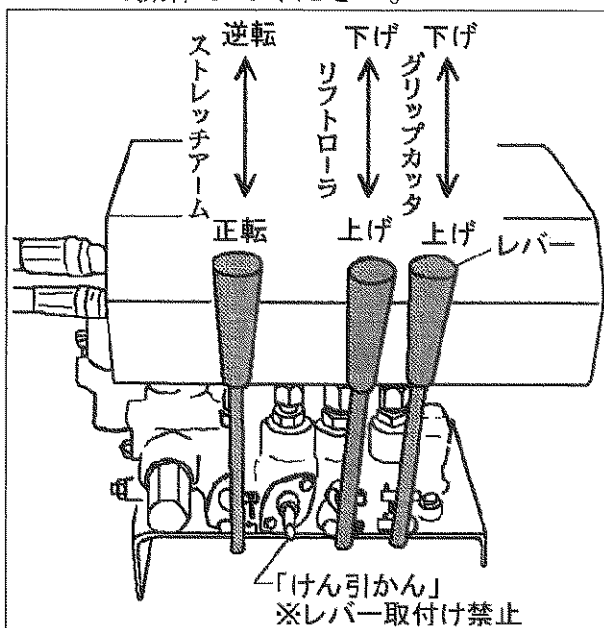
運転に必要な装置の取扱い

1. コントロールバルブの取扱い

本機装着のバルブは、4連電磁バルブです。

◆バルブレバーを操作するときは

運転者がトラクタの運転席より離れて、本機の近くで「段取り作業」や最後の仕上げ作業を行うときのみとし、それ以外はコントロールボックスで操作してください。



注意

レバー操作するときは、コントロールボックスの電源を切った状態で行ってください。



警告

- コントロールバルブのレバー操作は、本機の安全装置が働きません。
- レバー操作するときは、ストレッチアームの回転・リフトローラ・グリップカッタの動きに十分注意してください。

2. コントロールボックスの取扱い

◆ベールの積込みから放出まで

手元でベールの積込み、ラッピング、フィルム切断、ラッピング後のベールの放出まで行います。

- 作業中は必ず、自動作業の位置にして、数字が上がり、設定値で終了するのを確認してください。

※作業中コントロールボックスに、水やほこりがかからないようにしてください。

- コントロールボックスの詳しい内容については、「各部の名称とはたらき」を参照してください。(12ページ)

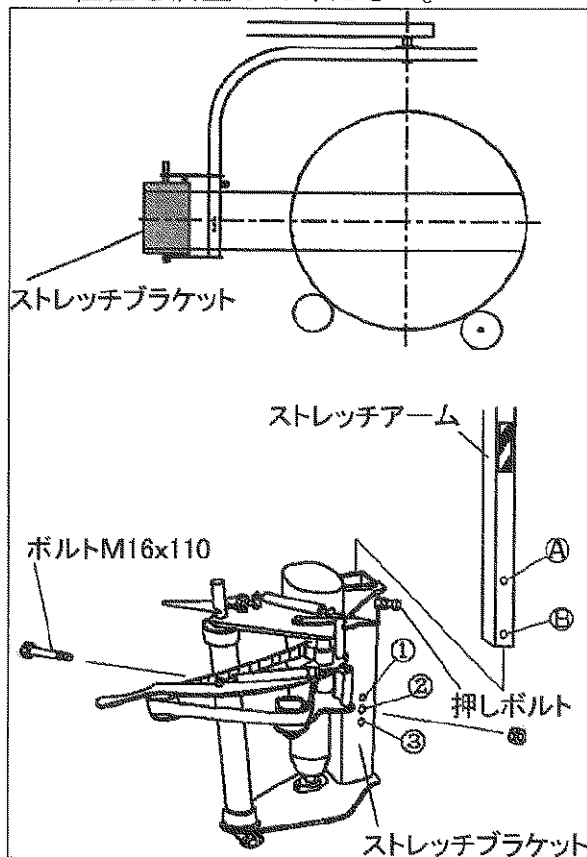
◆作業終了後は、取外して屋内保管

作業終了後は、電源コード側のコネクタより切り離し、水やほこりなどがかからない屋内に保管してください。

運転に必要な装置の取扱い

3. ストレッチブラケットの高さ調整

フィルムを中心がベールの中心に一致するようにストレッチブラケットの位置を調整してください。



- 押しボルトをゆるめ、ボルトM16 x 110を外してストレッチブラケットを上下して位置合わせをしてください。希望の穴にボルトM16 x 110を入れて締め、押しボルトを締めてください。

※調整の目安

ベールサイズ	ストレッチアーム	ストレッチブラケット
φ1200～φ1250	B	②
φ1300	B	③
φ1400～φ1450	A	①
★φ1500～φ1550	A	②
φ1600	A	③

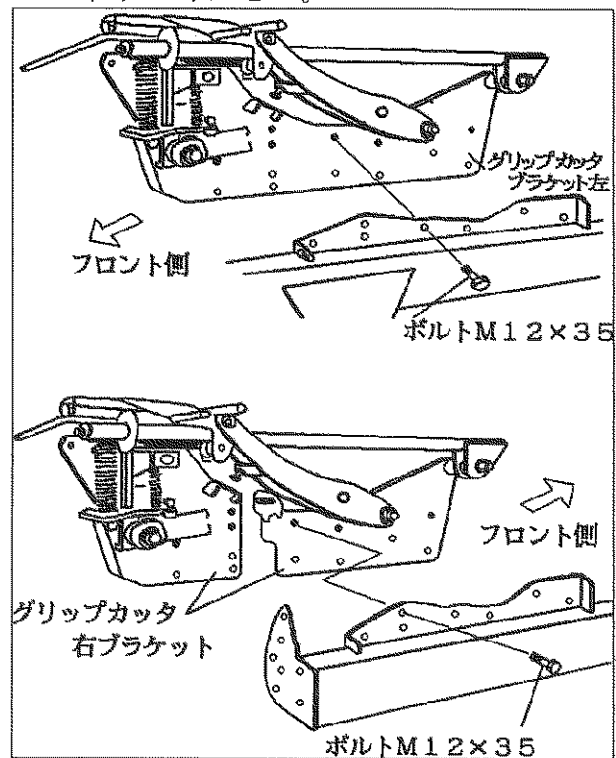
★印が標準出荷状態です。

4. φ1300以下ベール時の調整

φ1400以上のベールは、調整の必要はありません。

◆グリップカッターの高さ調整

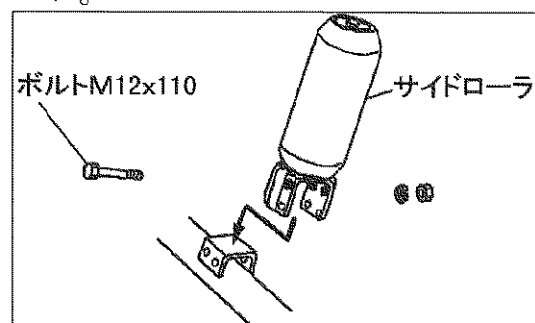
左右のグリップカッターブラケットを下げてください。



- ボルトM12 x 35 (各々7本)を外し、グリップカッターブラケットを下げて・の穴にボルトM12 x 35を入れて締めてください。

◆サイドローラの高さ調整

左右のサイドローラを下げてください。

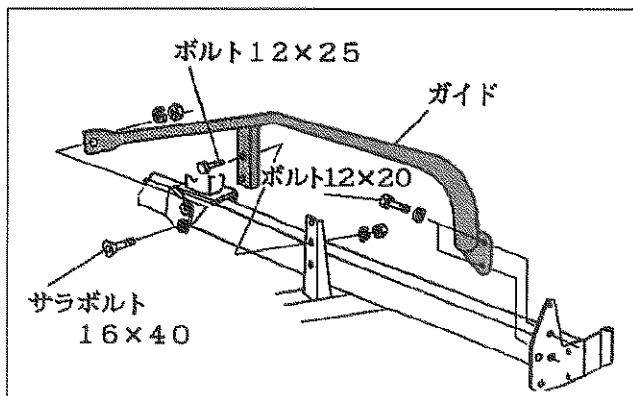


- ボルトM12 x 110 (各々2本)を外し、サイドローラを下げて・の穴にボルトM12 x 110を入れて締めてください。

運転に必要な装置の取扱い

◆ガイドの高さ調整

左右のガイドを下げてください。



- 各々のボルトを外し、ガイドを下げて・の穴にボルトを入れて締めてください。

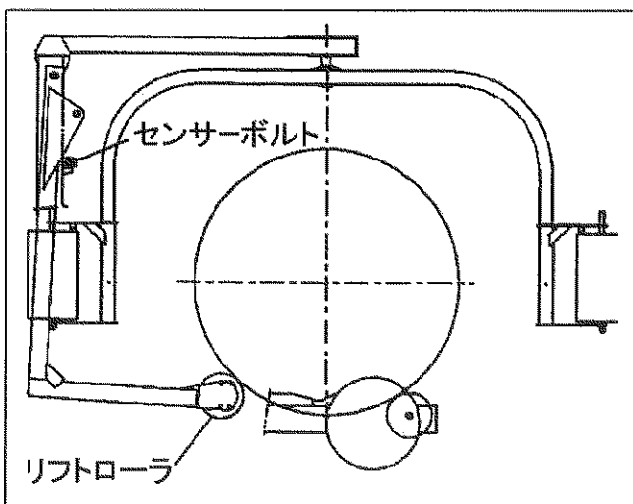
5. リフトローラ停止位置の調整

工場出荷時は、ベール径φ1500にセットしてあります。

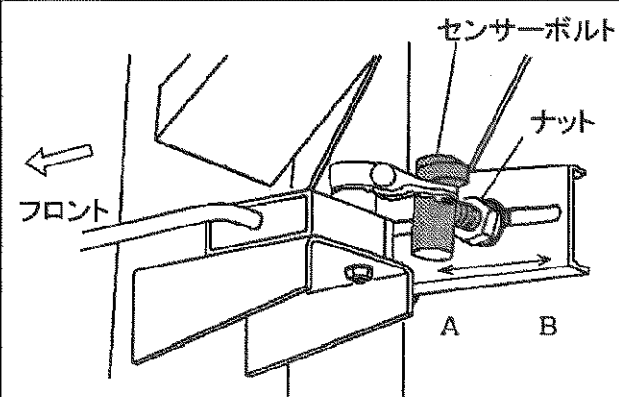
φ1500以外のベールをラップするときは、リフトローラの自動停止位置を調整してください。

◆センサーボルトの位置調整

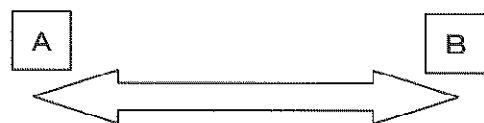
リフトローラが自動停止したとき、ベールの中心がストレッチアームの中心と一致するように、センサーボルトの位置を調整します。



◆調整のしかた



- ナットをゆるめてセンサーボルトをずらしてください。



ベールが後方にずれる

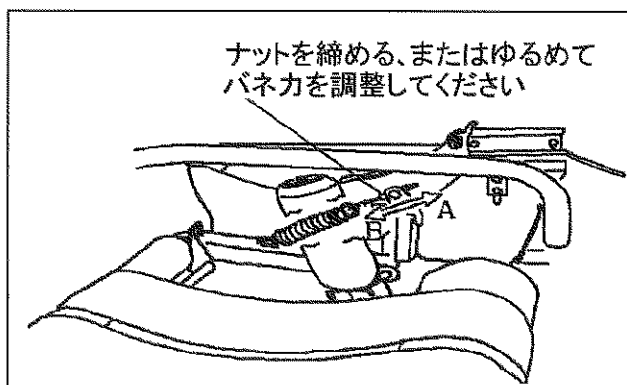
ベールが前方にずれる

注意

位置が合っていないとストレッチブラケットがベールに当たる恐れがあります。

6. テーブル前ローラのバネ調整

ベールの重量に応じて、バネ力を調整してください。



ナットを締める、またはゆるめてバネ力を調整してください

バネ力を強める

バネ力を強める

B

A

軽量でベールが浮いてしまう

重量ベールでベルトが空転して回

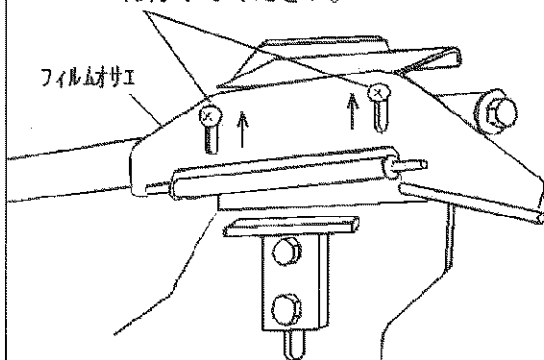
- 通常は標準出荷位置で作業できます。

運転に必要な装置の取扱い

7. フィルム切断具合の調整

グリップカッターによるフィルム切断具合が良くないとき、次の調整をしてください。

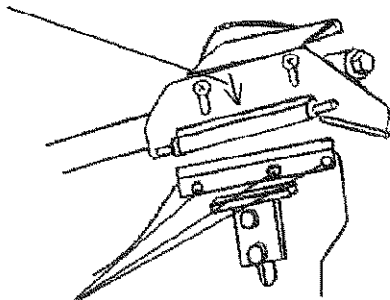
- ・フィルムを挟む前に切れて抜けてしまうときは、グリップカッターのフィルムオサエを上げてください。
なべ小ねじをゆるめてフィルムオサエを上げた後締付けてください。



フィルムオサエを上げるほど切れるタイミングが遅くなって抜けにくくなります。
(出荷時には一番下がった位置で組付けています。)

- ・フィルムの切れが悪く放出時にフィルムを引張ってしまうときは、フィルムオサエは最も下げ、またナイフを長穴分上げてください。

フィルムオサエは最も下げた位置にする



3つのボルトをゆるめてナイフを穴から外れない程度まで上げた後、締付けてください。

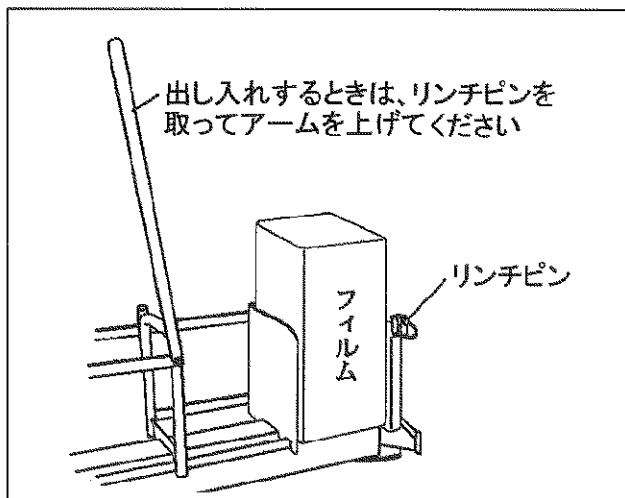


注意

ナイフ類は、絶対に素手で触れないでください。
必ず手袋などの保護具を装着してください。

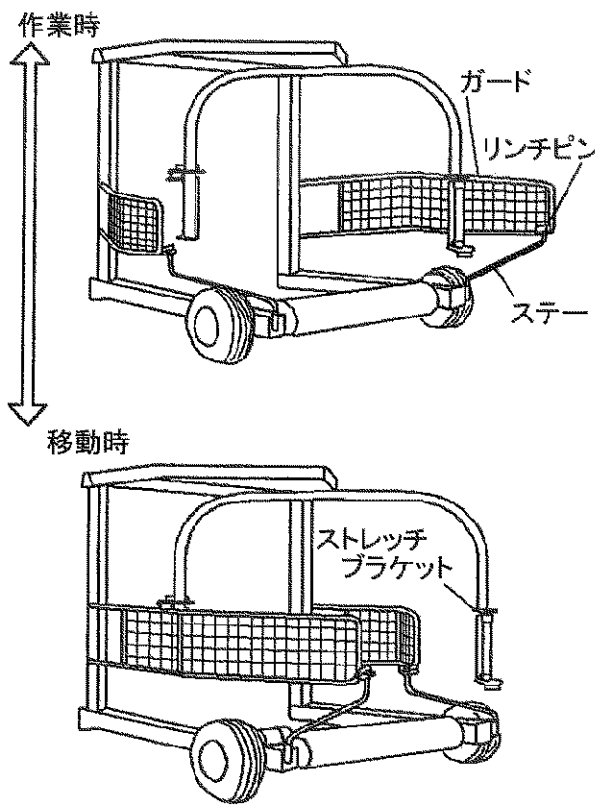
8. フィルム格納のしかた

フィルムは箱のまま、けん引かん上部のフィルムボックスに入れてください。(4箱入れられます)



9. 安全ガードの取扱い

作業時は広げ、移動時はたたんでください。



※ガードをたたむときは、図のようにストレッチブラケットを必ず前後の位置にしてから行ってください。

運転に必要な装置の取扱い

◆ガードの広げ方・たたみ方

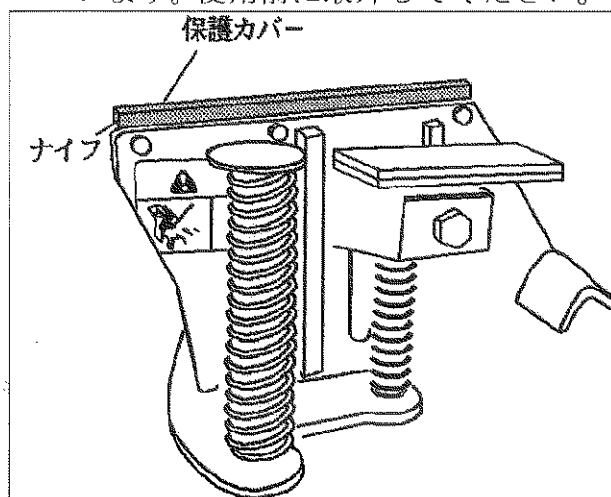
- リンチピンを外しステアを回転させ、その部分にガードを再度リンチピンで止めて変更してください。

⚠ 警告

取扱いは、トラクタのエンジンを止めて行ってください。

10. グリップカッタ・ナイフ保護カバーの取外し

工場出荷時はナイフには危険防止のため、刃物部に保護カバーがついています。使用前に取外してください。

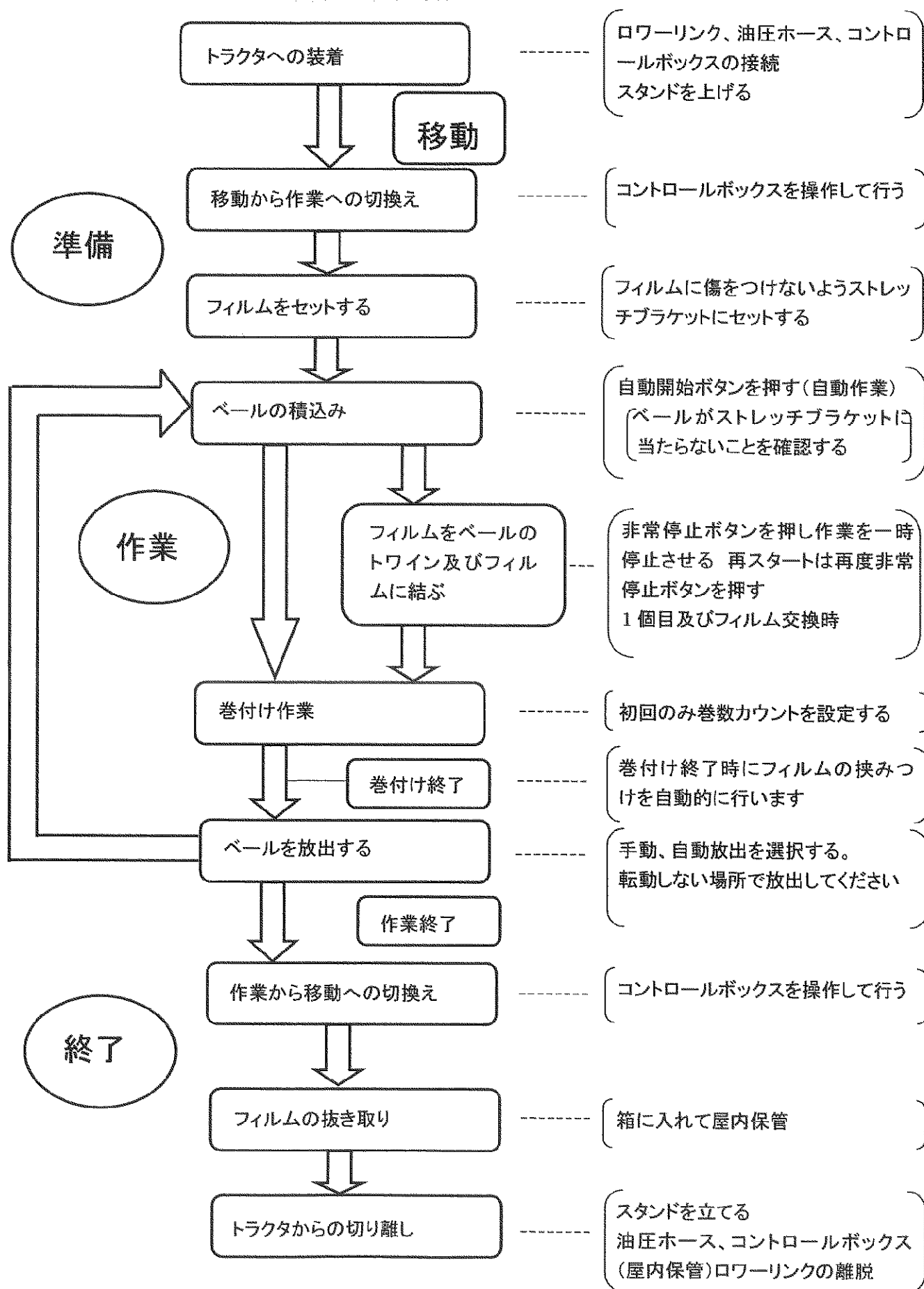


⚠ 注意

ナイフ類は、絶対に素手で触れないでください。
必ず手袋などの保護具を装着してください。

作業方法

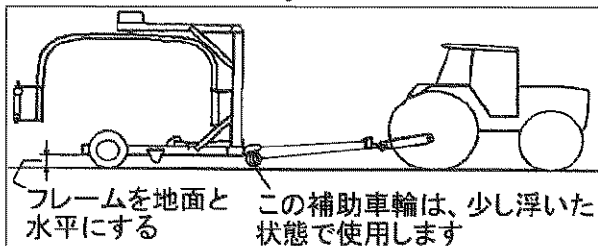
1. 作業手順と要点



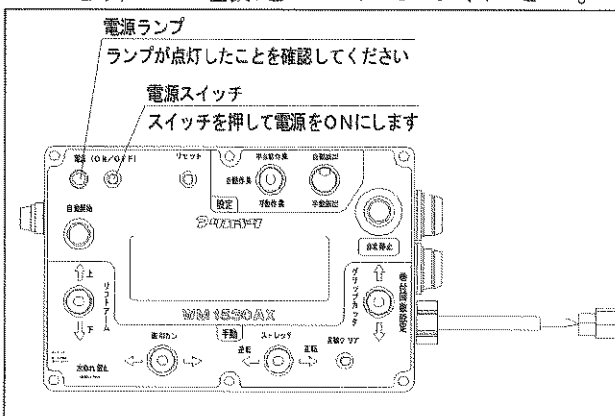
作業方法

2. 移動から作業への切替え

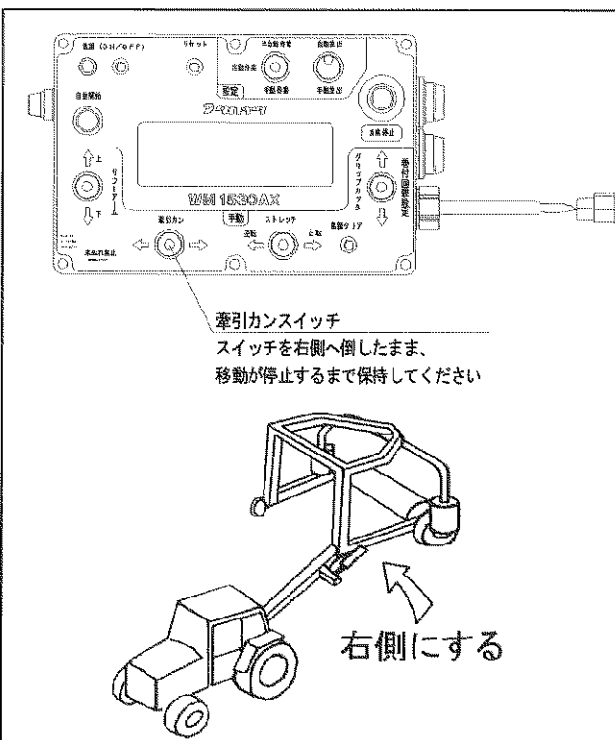
- ①ロワーリンクを操作して、本機を水平にしてください。



- ②コントロールボックスの電源スイッチを押して電源をONにしてください。



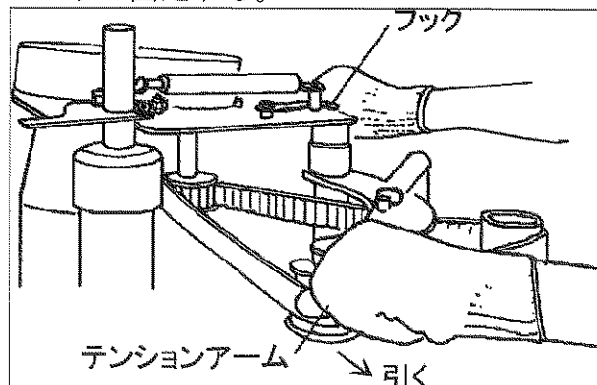
- ③トラクタを外部油圧取出しに切替え、コントロールボックスを操作して本機を右側に移動させる。



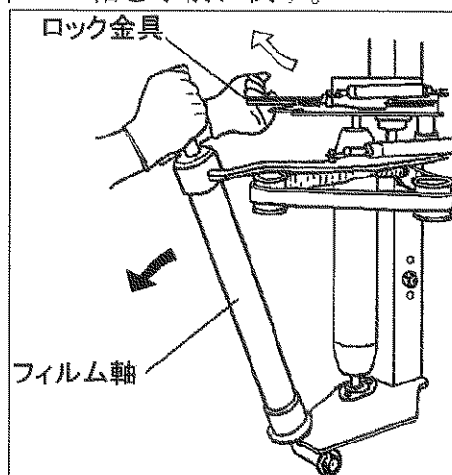
- ④ガードを広げる（18ページ参照）

3. フィルムをセットする

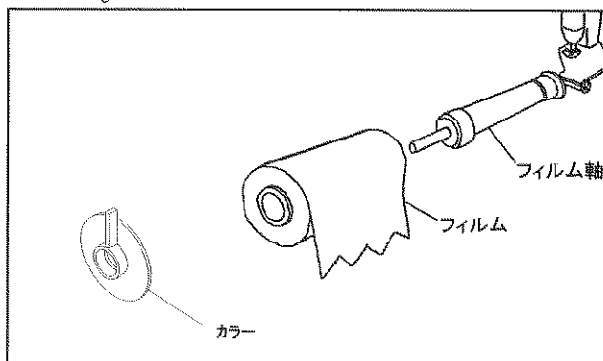
- ①テンションアームを引き、フックをかけて固定する。



- ②フィルム軸のロック金具を開いて、フィルム軸を手前に倒す。



- ③フィルム軸にフィルムと、フィルム上がり防止用カラーを差し込んでください。

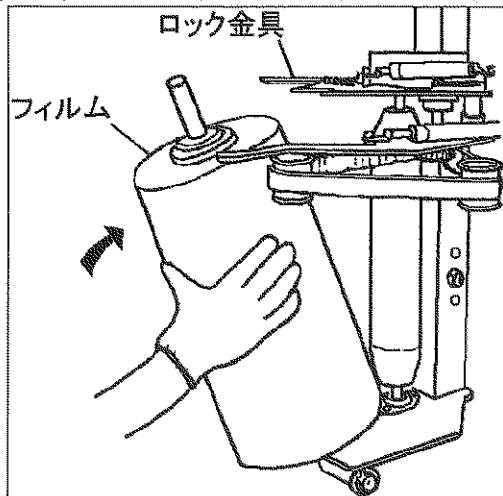


注意

フィルムの巻き方向は、必ず絵の向きにして差し込んでください。

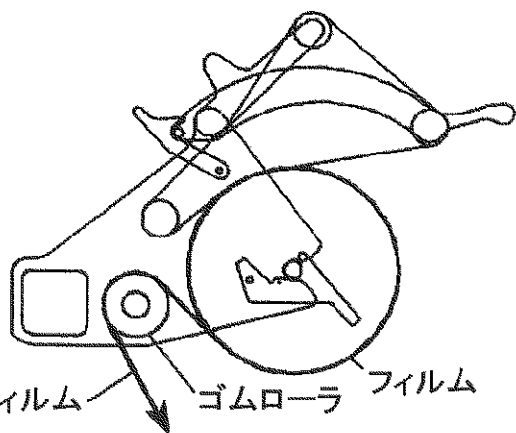
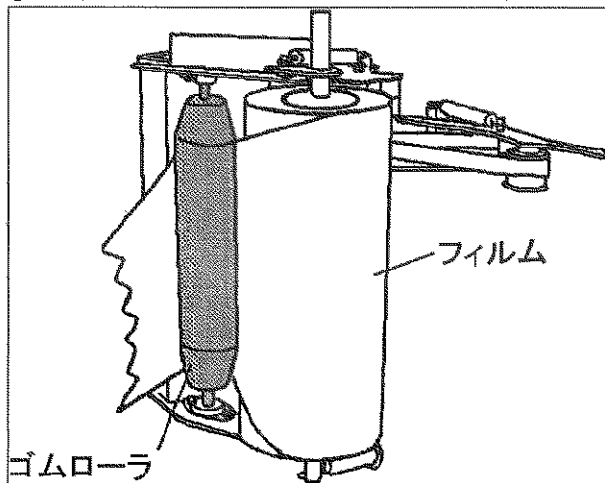
作業方法

④ フィルムを起こしてロックをかける。



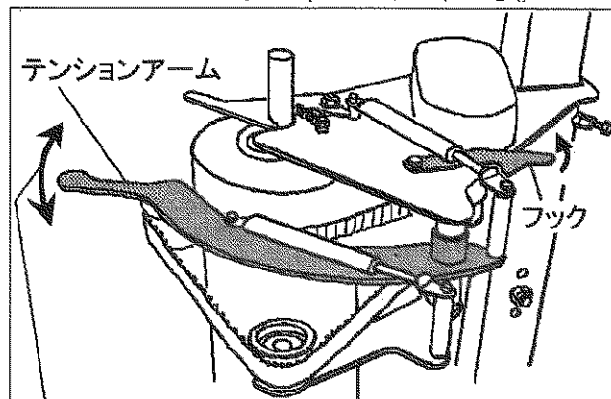
● 勢いよく起こすと、自動的にロックがかかります。

⑤ フィルムをゴムローラに通してください。



● 上図のようにフィルムをゴムローラに通してください。
(上から見た状態です)

⑥ テンションアームを引き、フックを外してベルトをフィルムに当てる。



1度引いてフックを外し、テンションアームをフィルム側に寄せ、ベルトをフィルムに当てる

注意

フィルムの取扱いには十分注意してください。

特に端部に傷がつくと、ラッピング中に切断します。

警告

フィルムを本機にセットするときは、必ずトラクタのエンジンを停止してから行ってください。

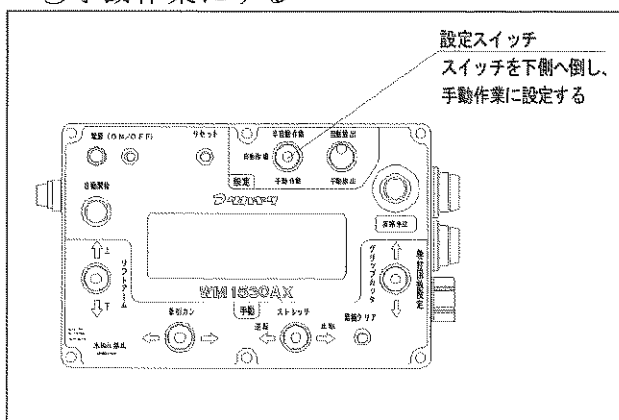
作業方法

4. 巻数設定

注意

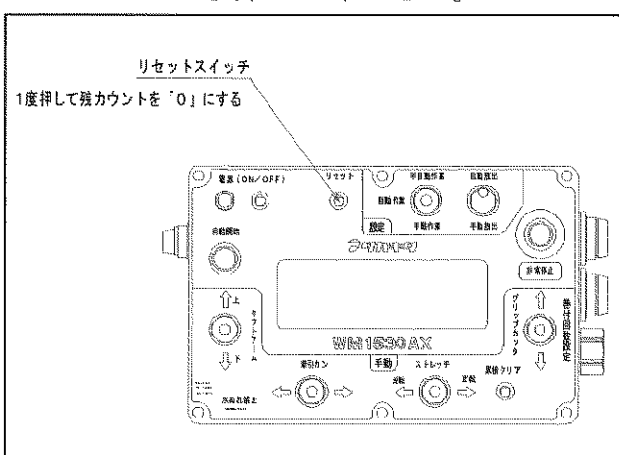
フィルムの巻数設定は、ベールサイズならびにフィルムの重ね数によって異なります。
実際のベールに巻付け、確認してください。

①手動作業にする



②巻付数のリセット

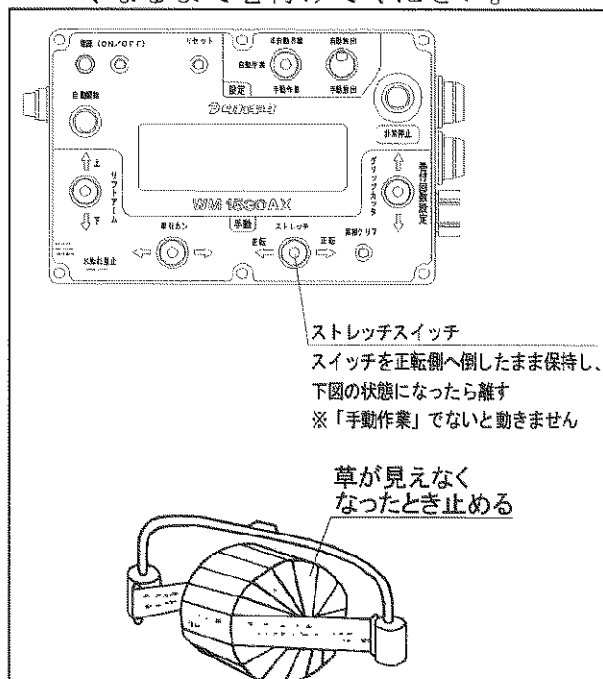
ベールを積込む前に記憶している残カウントをリセットして「0」にするため、1度コントロールボックスのリセットボタンを押してください。



③「7. 手動作業」(P 31. 32)を参照してベールを積込んでください。

④手動で巻付け

手動でベールの草がフィルムで見えなくなるまで巻付けてください。



⑤④の状態が2重巻きとなります。このときの液晶の最下段の数字を確認してください。

[例]

シュドウモード

セッテイ マクスウ:12カイ
マクスウ : 8カイ

最下段の数字8

⑥設定値の算出

●⑤で確認した表示窓の数字をもとに、希望する重ね数の設定値を算出してください。

●⑤の例の場合

重ね数	設定値
2重巻	8
4重巻	16 (8 x 2)
6重巻	24 (8 x 3)

この設定値は本設定 (P 24 参照) するまで忘れないよう記憶願います。

作業方法

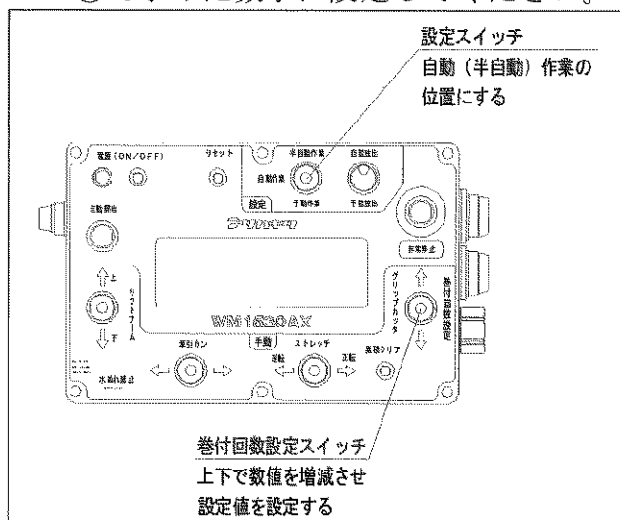
- ⑦この1個のベールの残り巻付けは、「手動作業」のまま設定値まで巻付け、フィルムのグリップカット及び放出まで行ってください。

(手動作業の使用方法是P 3 1～3 5を参照してください。)

- ⑧次のベールを同じ要領で積込みしてください。

⑨本設定

自動（半自動）作業に切替え、巻付回数設定スイッチを上下させて巻き数を⑤で求めた数字に設定してください。



カシマチ
マキスウ セッテイ カノウ
グリップ ウエ シタ デ セット
セッテイ:8 ルイセキ:3

操作中

セッテイ:24
ルイセキ:3

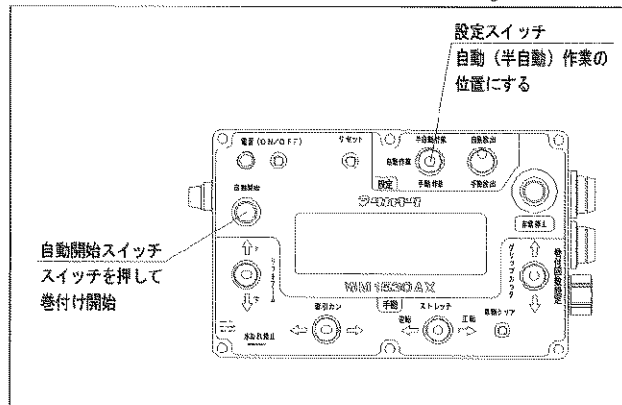
注意

設定可能範囲は8～50です。

⑩自動（半自動）作業

自動開始スイッチを押し、自動巻付けする。

このとき、コントロールボックスの表示数字及び本機が「6. 自動（半自動）作業」(P 2 6～2 9)のように変化し、動くことを確認してください。



注意

- 設定値は、電源を切っても記憶され続けます。

従って設定値を変更する場合以外は、再設定の必要がありません。

⑪ベールの放出

「6. 自動（半自動）作業」(P 2 9)を参照してベールを放出してください。

作業方法

5. 累積ベール表示

自動（半自動）で巻付けたボール数を表示することができます。

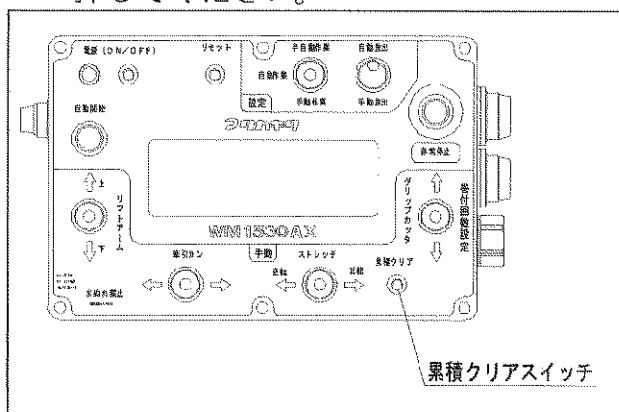
① 累積表示

開始待ちの状態にしてください。
作業中の場合はリセットボタンを押し
開始待ちの状態にしてください。

②累積数の「0」クリア

累積数は電源を切っても記憶され続けます。

「0」に戻したいときは、自動作業開始待ちの状態で累積クリアスイッチを押してください。



カイシマチ
マキスウ セツテイ カノウ
グリッブ ウエ シタ デ セット
セツテイ:24 ルイセキ:0

③自動卷付累積表示

自動開始スイッチを押して巻付け、放出した数を表示します。

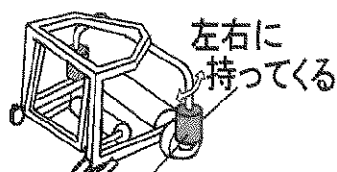
注意

- 手動巻付けした場合は、数に加わりません。
- 巻付け途中で非常停止した後、再度巻付けスタートした場合は、2度スイッチを押したことになりますが1個にみなします。

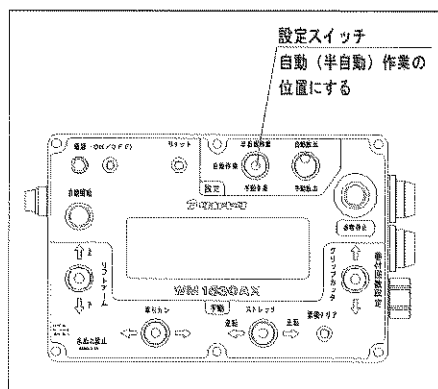
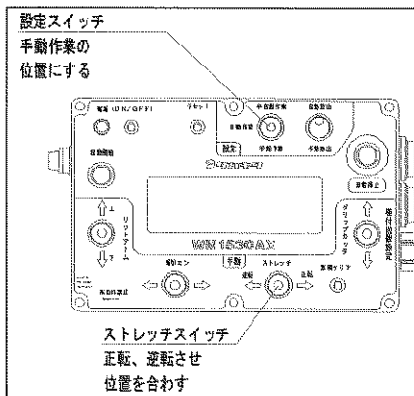
作業方法

6. 自動（半自動）作業

1回目のみ
ストレッチアームを手動操作で
左右にする



設定を自動作業もしくは半自動作業にする



「設定」の自動作業では表示部は無表示ですが、半自動作業を選択すると、下図のとおり表示されます。

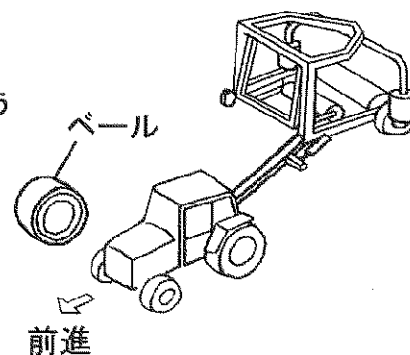
ハンジドウモード

ペールに向かって前進する

カインマチ
マクスウ セッテイ カノウ
グリッブ ウエ シンタ デ セット
セッテイ 24 ルイセキ : 0

ペールの積み込みは
横方向、右図のよう
に前進する

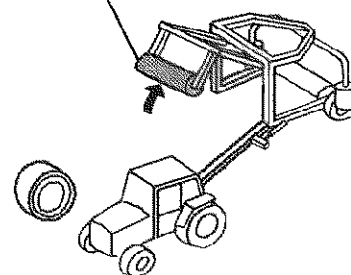
あらかじめフィルム
巻数設定をしておく
(P23,24)



作業方法

自動作業の場合はベールの手前で自動開始スイッチを押します。
半自動作業の場合はリフトアームスイッチを“上”にして上がりきって停止するまで保持してください。

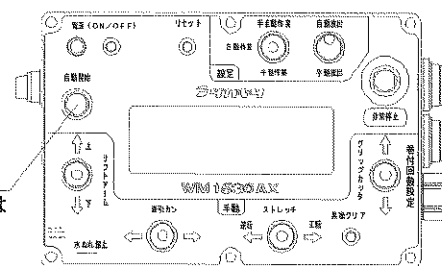
リフトローラ



自動作業

リフト ガ ウゴキマス

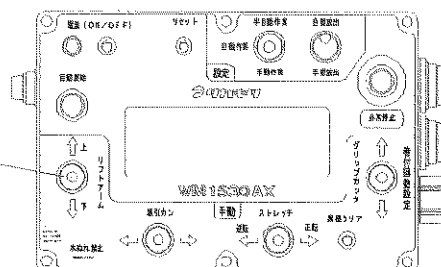
自動開始スイッチを押す
リフトアームが上がっている間は
ブザーが鳴ります



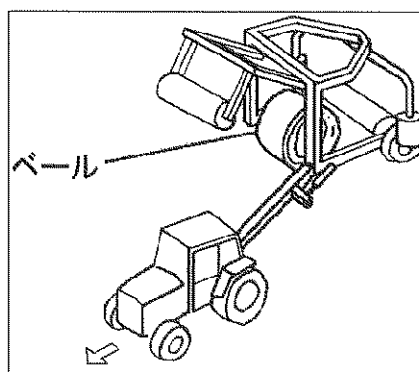
半自動作業

ハンジドウモード
リフト テイイチ
セツテイ:24 ルイセキ:0

リフトアームスイッチ
スイッチを「上」に倒したまま
最大に上がるまで保持する
リフトアームが上がっている間は
ブザーが鳴ります



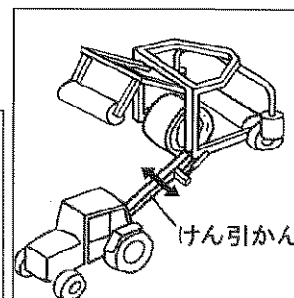
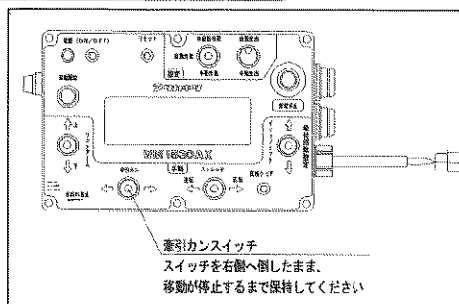
前進してベールを入れます。



↑前項に戻る

作業方法

ずれたときは「牽引かん スイッチ」を押して修正します。



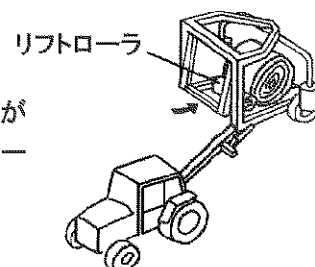
自動作業……ペールを検出しリフトアームが自動で下がリペールを積み込みします。
下がっている間リフトアームスイッチを上にとするとその間リフトアームは上がります。ペールがずれて積み込みがうまくいかないとき使用してください。
半自動作業……ペールが最適位置に来たらリフトアームスイッチにて手動で積み込みします。
そのままスイッチを下げの方向で押し続けると、自動的にリフトアームは定位置で停止します。

自動作業

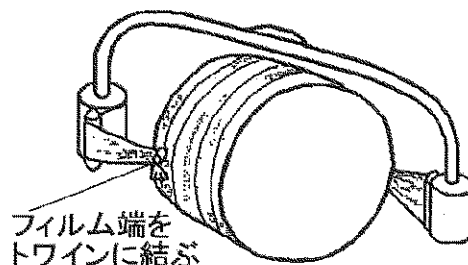
リフト ガ ウゴキマス

半自動作業では表示されません。

リフトアームが下がっている間はブザーが鳴っています。



1 個目のみペールのトワインにフィルムを結びつけます。
必ず非常停止ボタンを押し、一時停止させて行なってください。再スタートは再度非常停止ボタンを押します。



※非常停止ボタンを押すと“ピッピッピッ”という音が鳴ります。

自動作業……巻付けは自動的に開始します。
半自動作業……巻付けはリフトアームが定位置に来たら自動開始ボタンを押します。

警告

取扱いは、トラクタのエンジンを止めて行ってください。

↑前項に戻る

作業方法

↑ 前項に戻る

「ストレッチ アームが動きます」の表示とともに、ストレッチアームが回り始めます。

ストレッチ アーム ガ ウゴキマス

※自動作業のみ表示されます。

ストレッチアームが2回転後(巻数:2)からグリップカッタが少し浮き、挟んだフィルムを離します。

ラッピング チュウ

セッテイ マキスウ :24 カイ

マキ スウ :2 カイ

巻数が設定した巻数の 1 つ前(例:設定値 24 のときは“23”)になったとき、ストレッチアームが低速回転になります。

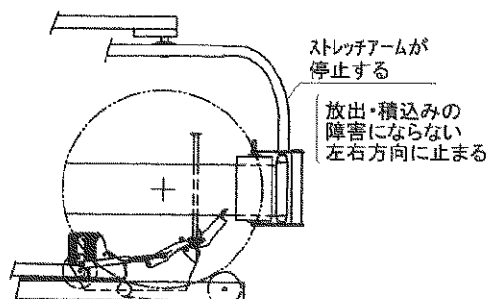
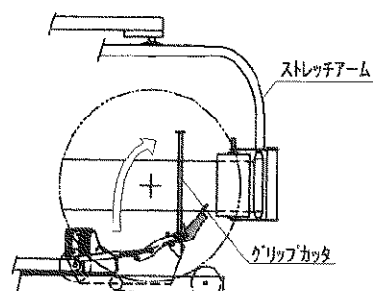
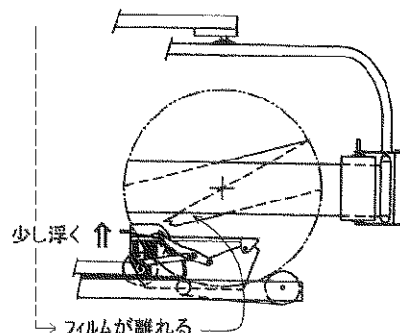
ラッピング チュウ

セッテイ マキスウ :24 カイ

マキ スウ :23 カイ

低速回転でストレッチアームが半回転したとき、グリップカッタが上昇します。

低速回転でさらに半回転した後、ストレッチアームが停止します。
 (ストレッチアームは後のペール放出、積込みの障害にならない位置に自動停止します。)



作業方法

↑ 前項に戻る

ストレッチアームの停止と同時にグリップカッターが下降し、フィルムを束ねて挟みつけ、フィルムのベール側をナイフに押さえつけます。
※フィルムの切断は、放出と同時に起こいます。

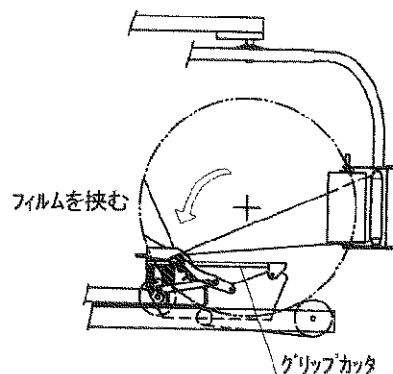
ラッピング シュウリョウ

自動作業…自動的に放出されます。
もしスイッチが手動放出になっていたら自動放出に切り替えれば放出されます。
半自動作業…リフトアームスイッチにて放出します。

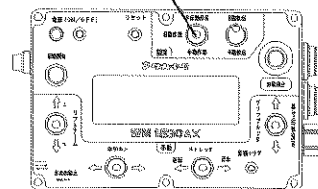
“自動作業で手動放出状のみの表示”

ベール ホウシュツマチ

ベール フ ホウシュツシマス



放出は自動放出、手動放出の2種類から選べます。



手動放出にあればラップ作業後放出待ちの状態でピッピッと音が鳴ります。



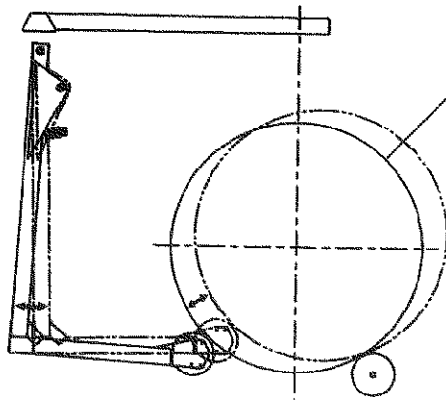
注意

ベールを放出するときは、後方に人がいないことや、障害物のないことを確認してください。
また、転動しない場所で放出してください。

作業方法

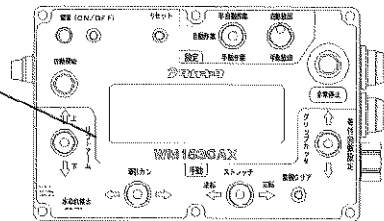
③自動（半自動）巻付け中におけるリフトアームの微調整

自動（半自動）巻付け中にリフトアーム上下のスイッチを押すとリフトアーム停止位置の微調整ができます。



変形ベールなどのため、テーブルベルトが空転して回転しないとき、ベールを上記の方法で持ち上げると回転し始めることがあるので、そのようなときに使用してください。

自動（半自動）
巻付中リフトアームの微調整
ができます。



リフトアームとストレッチアームが干渉する手前で自動停止し、お互いの干渉を未然に防ぐようになっています。

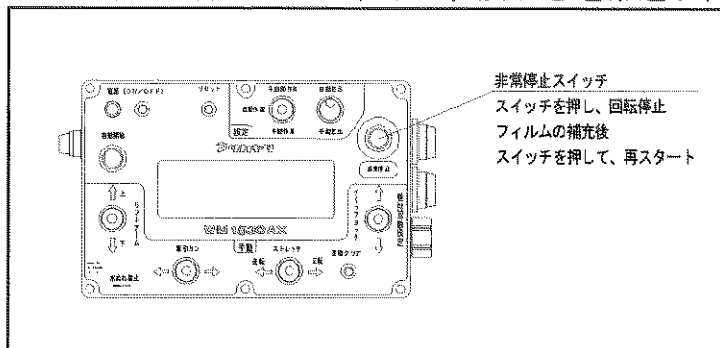
④巻付け中にフィルムがなくなったり、切れたりした場合

すぐに非常停止スイッチを押し、回転を止めてください。

フィルムの補充を行った後、再度非常停止ボタンを押して再スタートしてください。

（停止中は音が鳴り続けています。）

非常停止ボタンを押して再スタートすると、残りを通常通り自動巻付けします。



非常停止スイッチ
スイッチを押し、回転停止
フィルムの補充後
スイッチを押して、再スタート

注意

●正確な巻付けにするため、できるだけ早く非常停止スイッチを押してください。

④自動巻付累積表示

自動（半自動）作業にて作業を行った数量のみ表示します。

自動開始待ちの状態にすると累積数が表示されます。（自動作業中はリセットボタンを押してください。）

（表示例）

カイシマチ
マクスウ セッテイ カノウ
グリッ プ ウエ シタ デ セット
セッテイ:24 ルイセキ:3

注意

●手動巻付けした場合は、数に加わりません。

巻付け途中で非常停止した後、再度スタートした場合はカウントされます。

作業方法

7. 手動作業

手動作業位置にする。

シフト モード

1回目のみ
ストレッチアームを手動操作で
左右にする

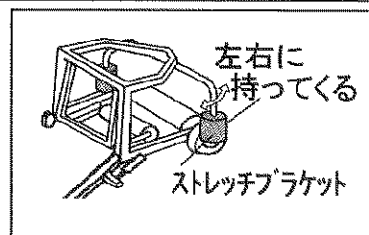
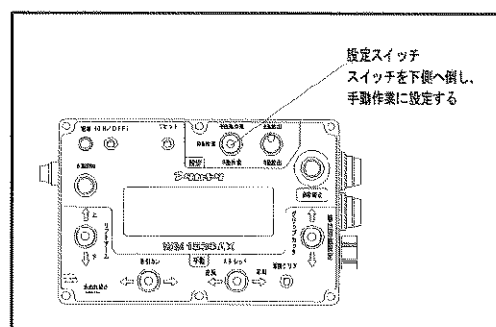
ベールに向かって前進する

ベールの手前でリフトローラを
上げる

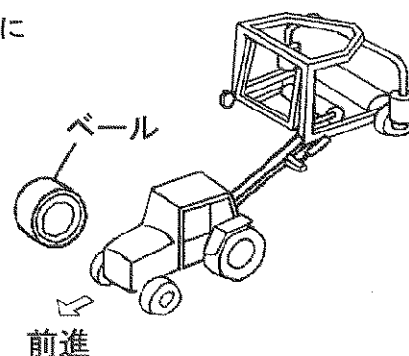
リフトアームスイッチ
スイッチを「上」に倒したまま
最大に上がるまで保持する
リフトアームが上がっている間は
ブザーが鳴ります

ストレッチアームが左右にある
こと(確認・修正)

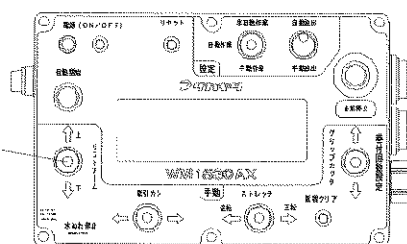
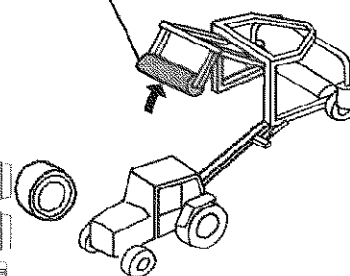
次 ページ



ベールの積込みは
横方向、右図のように
前進する



リフトローラ

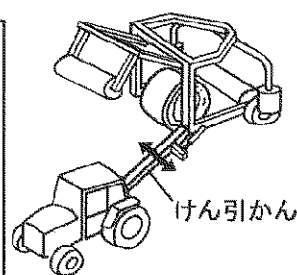
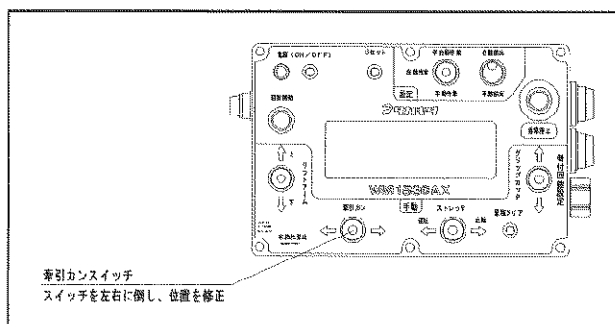
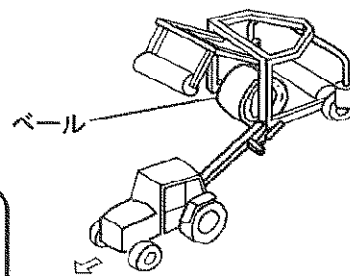


作業方法

↑ 前項に戻る

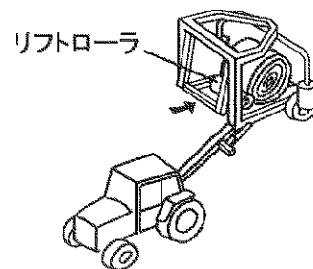
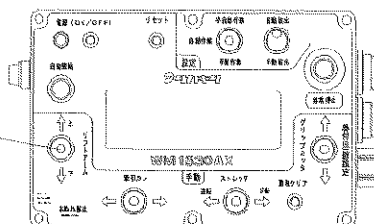
前進してベールを入れる

ずれたときは「牽引カン
スイッチ」を倒して修正する

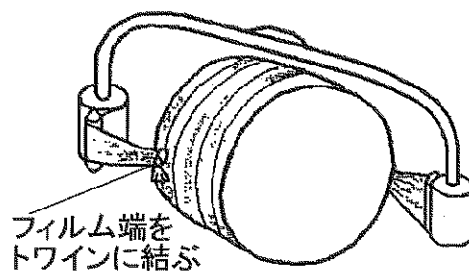


リフトローラで積込みする

リフトアームスイッチ
スイッチを「下」に倒し
ベールがテーブルに乗る
まで保持する



1 個目のみ
ベールのトワインにフィルムを
結ぶ



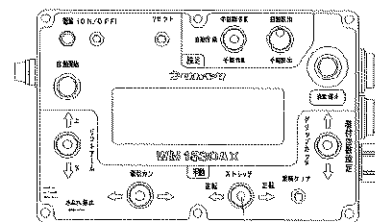
警告

取扱いは、トラクタのエンジンを
止めて行ってください。

↓ 次ページ

作業方法

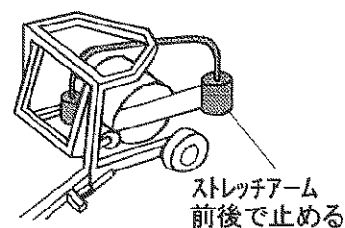
ストレッチスイッチを正転側に倒し、巻数が3～4になるまでストレッチアームを回転させ、ストレッチアームがほぼ前後の位置で止めてください



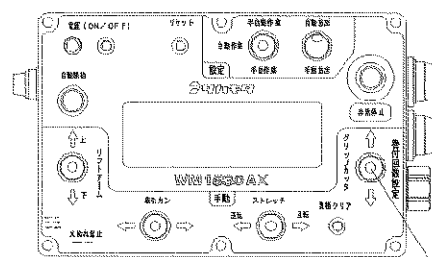
ストレッチスイッチ
スイッチを正転側へ倒したまま保持し
下図の状態になったら離す
※「手動作業」でないと動きません

注意

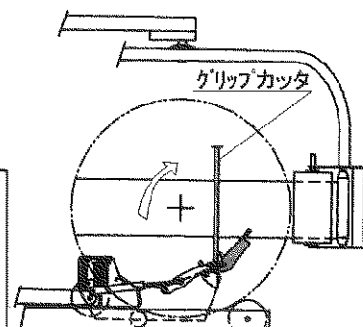
手動作業のときはリフトローラが
どこの位置にあってもストレッチ
が回転しますのでアームと接触し
ないようにしてください。



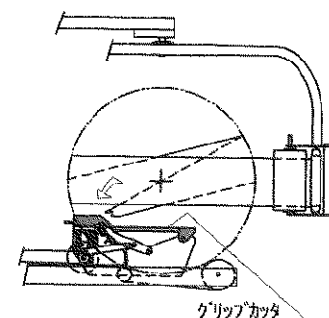
グリップカッタスイッチを「上」に倒し、グリップカッタを最大まで上げて、つかんでいるフィルムを離してください



グリップカッタスイッチ



グリップカッタスイッチを「下」に倒し、グリップカッタを最も下がるまで下にさげます。

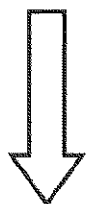
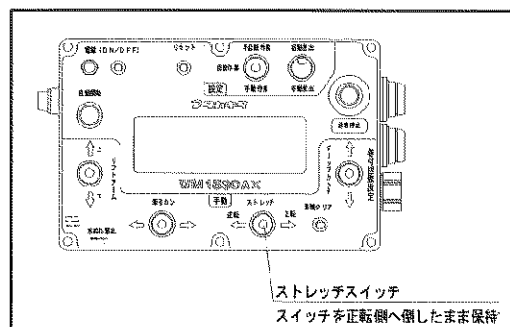


次項へ

作業方法



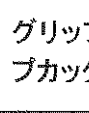
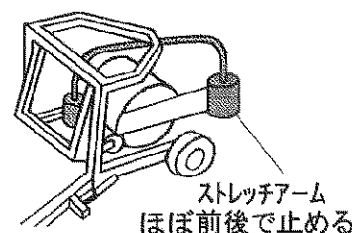
ストレッチスイッチを「正転」に倒して保持し、ストレッチアームを設定巻数の1回転前まで回転させ、ストレッチアームがほぼ前後の位置で止めてください



シュドウ モード

セッテイ マクスウ: 24 カイ

マクスウ : 23 カイ

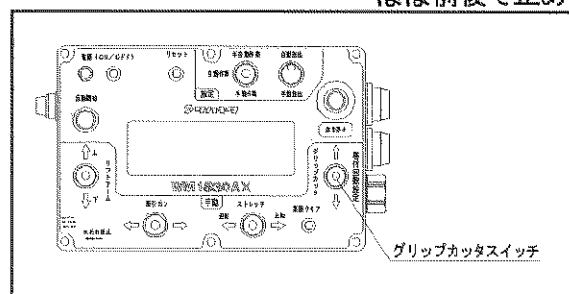


グリップカッタスイッチを「上」に倒し、グリップカッタを最大まで上げてください

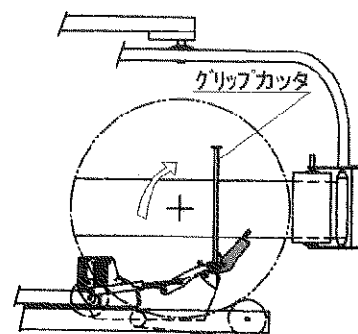
シュドウ モード

セッテイ マクスウ: 24 カイ

マクスウ : 23 カイ



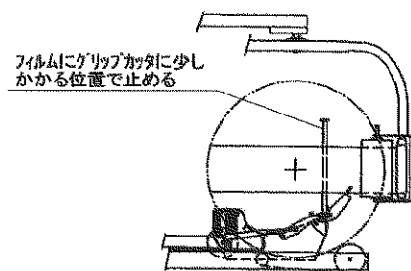
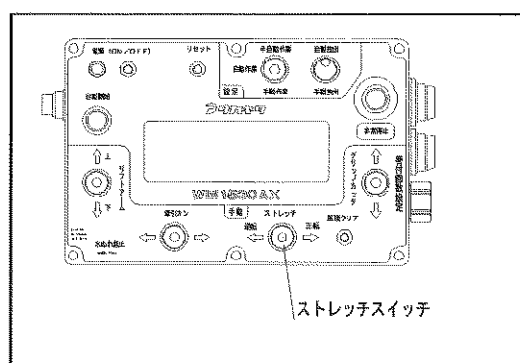
ストレッチスイッチを「正転」に倒して、フィルムがグリップカッタにかかるまでストレッチアームを回転させてください。



シュドウ モード

セッテイ マクスウ: 24 カイ

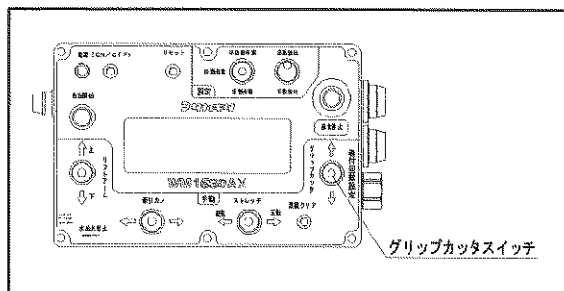
マクスウ : 24 カイ



作業方法



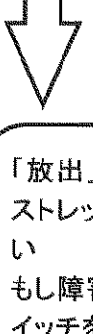
グリップカッタスイッチを「下」に倒し、グリップカッタを最も下げてください



シュドウ モード

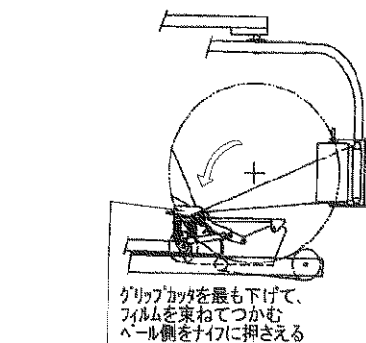
セツアイ マクスウ 24 カイ

マクスウ 24 カイ

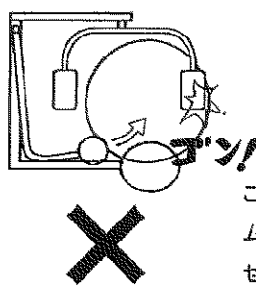
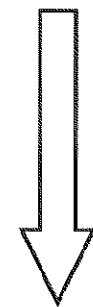


「放出」「積込み」の障害にならない位置にストレッチアームがあることを確認してください

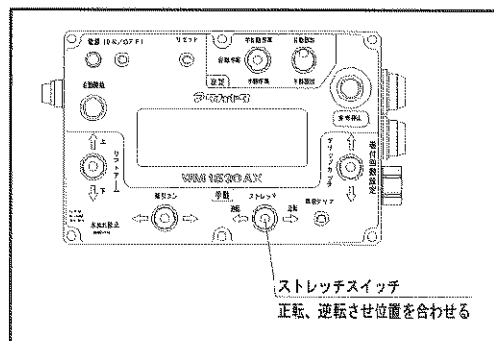
もし障害になる場合は、ストレッチアームスイッチを正逆させ、位置修正をしてください



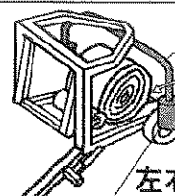
グリップカッタを最も下げて、フィルムを束ねてつかむベール側をナイフに押さえる



この場合は、「ストレッチアーム」レバーの正逆で位置合わせをしてください。



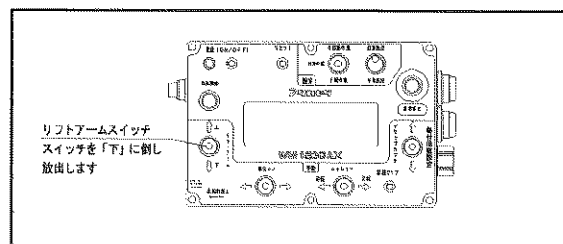
ストレッチスイッチ
正転、逆転させ位置を合わせる



ストレッチアーム

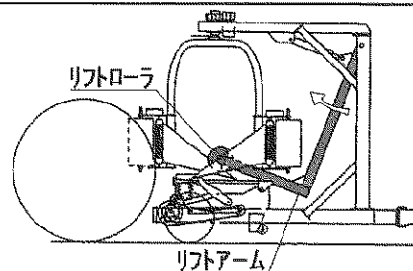
左右に持ってくる

放出



リフトアームスイッチ
スイッチを「下」に倒し
放出します

※ベール放出後は一度 自動、半自動作業にスイッチを倒して表示をクリアしてください。
(手動作業では放出を認識できません。)



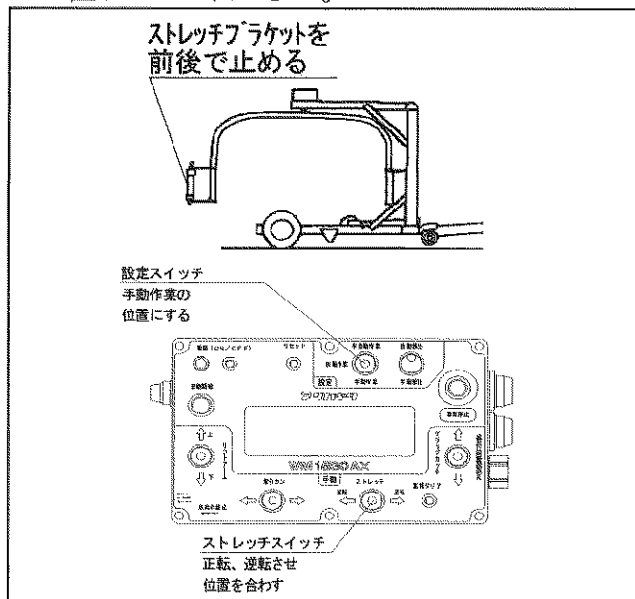
注意

ベールを放出するときは、後方に人がいないことや、障害物のないことを確認してください。
また、転動しない場所で放出してください。

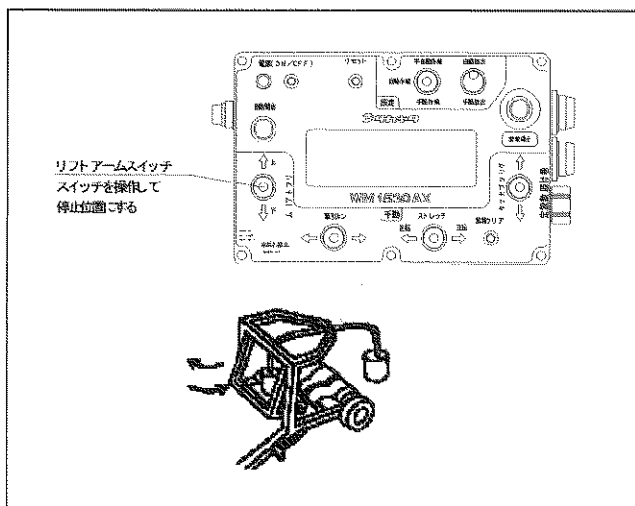
作業方法

8. 作業から移動への切替え

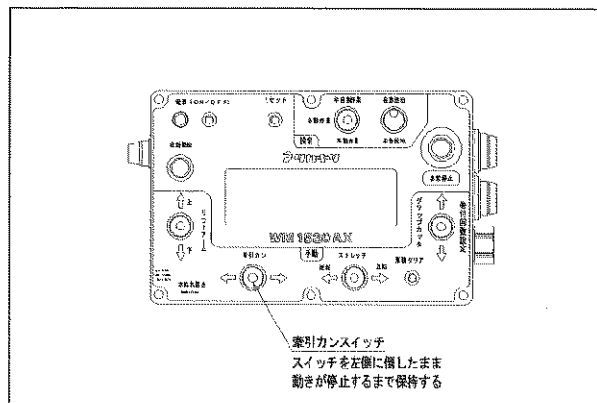
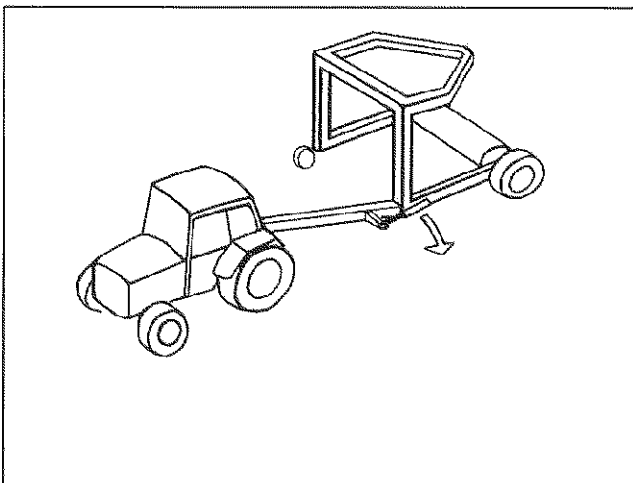
- ①ストレッチブラケットをほぼ前後の位置にしてください。



- ②リフトアームを停止位置にする。

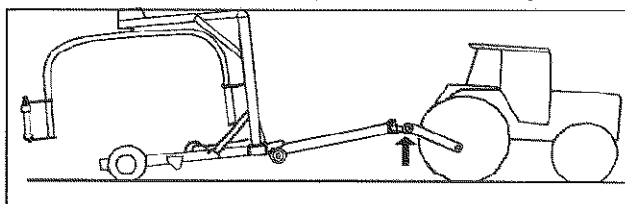


- ③本機を左側に移動させ、トラクタの真後にします。



- ④ガードをたたむ (18 ページ参照)

- ⑤ロワーリンクを最大まで上げる。



注意

ロワーリンクを上げるためには、トラクタの外部油圧取出し状態を解除しないといけません。

9. フィルムの取外し

フィルムの取外しは、「フィルムの取付けのしかた」(P 21~22) の項を参照して、その逆手順で行ってください。

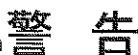
注意

- 作業終了後は必ずフィルムを取外し、段ボール箱などに入れ、中で動かないような処置をしてください。
- 本機けん引かん上部の収納ボックスに、4箱のフィルムが入れられます。
※フィルムは必ず箱に入れ、収納ボックスに収納してください。

警告

- ①本機を装着しての運転は、道路及びまわりの条件に適した速度で行ってください。
絶対に急発進・急カーブ・急ハンドルは行わないでください。
- ②カーブを曲がる時は、重心の変化や機械の幅に十分注意してください。

作業の安全確保と、故障を未然に防ぐには、機械の状態をよく知っておくことが大切です。
作業前の点検は、欠かさず行ってください。



- | No. | 項 目 | 内 容 | 参照ページ | チェック |
|-----|------------------|-------------------|-------|------|
| 1 | コントロールボックスの電源 | 電源ランプ確認 | 1 4 | |
| 2 | テーブルローラ関係への草の巻付き | 巻付いた草を除去する | | |
| 3 | ローラベルトに傷はないか | 傷があれば新品と交換 | | |
| 4 | フィルム切断ナイフ | 破損しているときは新品と交換 | 1 9 | |
| 5 | タイヤの空気圧 | 不足のときは空気補充 | 3 9 | |
| 6 | 予備シェアボルト | 不足のとき補充 | 3 8 | |
| 7 | ゴムローラへのゴミ・ノリの付着 | 灯油で取り除く | | |
| 8 | 各部のボルト・ナット | ゆるみ、がたつきがあれば増締めする | | |
| 9 | その他各部の注油・グリス | 「各部への給油」参照 | 4 0 | |

[illegible]

簡単な手入れと処置

警告

- ①各部の調整をするときは油圧を切り、エンジンを停止させて回転が止まってから行ってください。
- ②取外したカバー類は、必ず取付けしてください。

1. シェアボルトの交換

◆シェアボルト式安全装置を装備

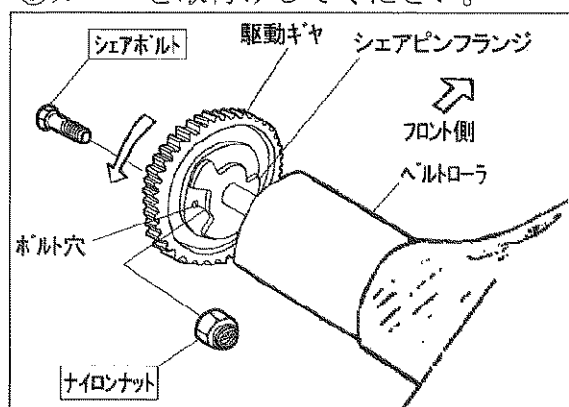
ベルトローラ（後）、駆動ギヤに過負荷がかかったときボルトがせん断され、本機の損傷を防止します。

◆シェアボルトのサイズ

ボルト M8 x 35 (8T) 半ネジ
ナイロンナット M8
(カバーの中に予備が4セット入っています)

◆シェアボルトの交換

- ①カバーを外す
- ②せん断させたボルトを除去する
- ③コントロールバルブレバーでストレッチアームを回すことで駆動ギヤを回し、ボルト穴が通る位置にしてください。
- ④外側からボルトを入れ、ナイロンナットで締付けしてください。
- ⑤カバーを取付けしてください。



注意

シェアボルトは、上記指定のボルト以外は絶対に使用しないでください。

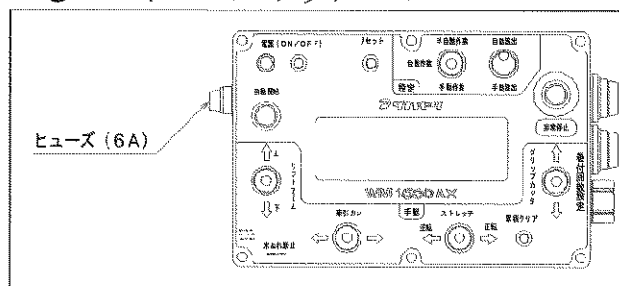
2. ヒューズの交換

電源が入らない場合は、ヒューズが切れている可能性があります。点検し、切れていれば交換してください。

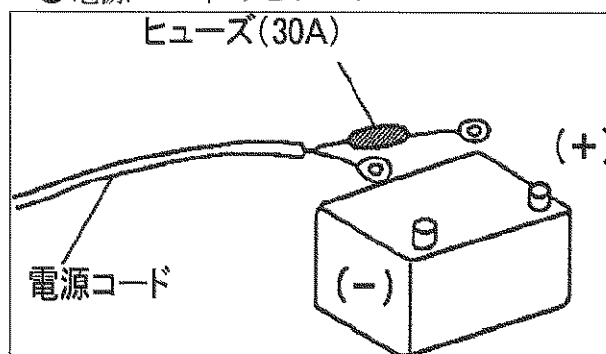
〔予備ヒューズ各1ヶが付属品箱に入っています。〕

アンペアを確認して使用してください。

●コントロールボックスのヒューズ



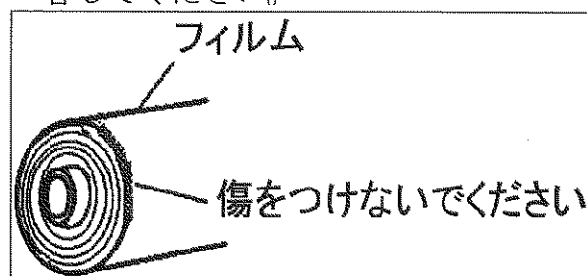
●電源コードのヒューズ



3. フィルムの取扱いについて

●フィルムの表面に傷をつけないようにしてください。特に端面は傷がつきやすく、傷がつくとラッピング中に切れますので、注意して取扱いしてください。

●使用後は必ず取外し、乾燥した屋内で保管してください。



注意

フィルムは雨にぬらさないでください。雨にぬれると紙筒が変形し、抜き取れなくなります。

簡単な手入れと処置

4. タイヤの点検・修理

◆装着のタイヤと空気圧

●タイヤサイズ

22 x 10.00 - 10 12プライ

●定期的に空気圧を点検してください。

常用タイヤ内圧：575 kPa

(5.75 kg/cm²) 以下



警告

- タイヤに関係する作業を行う場合は、安全な場所に本機を降ろし、必ず車止めをしてから行ってください。
- タイヤ及びホイールに関する修理は、十分な設備をもったタイヤショップなどの専門のところに依頼してください。

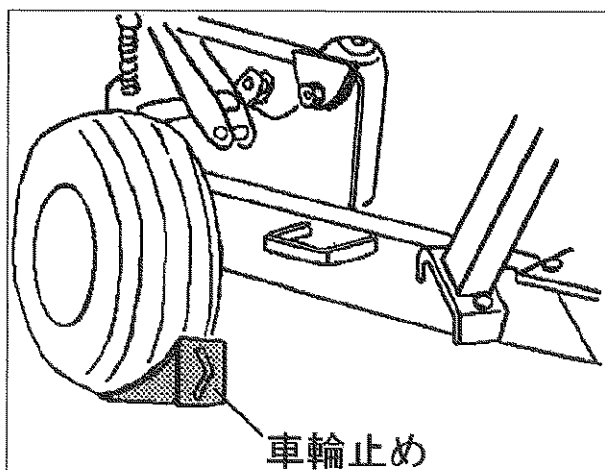
5. 車輪止め

駐車時は、必ず車輪止めでタイヤの歯止めをしてください。また、使用後はフレーム部へ格納してください。



警告

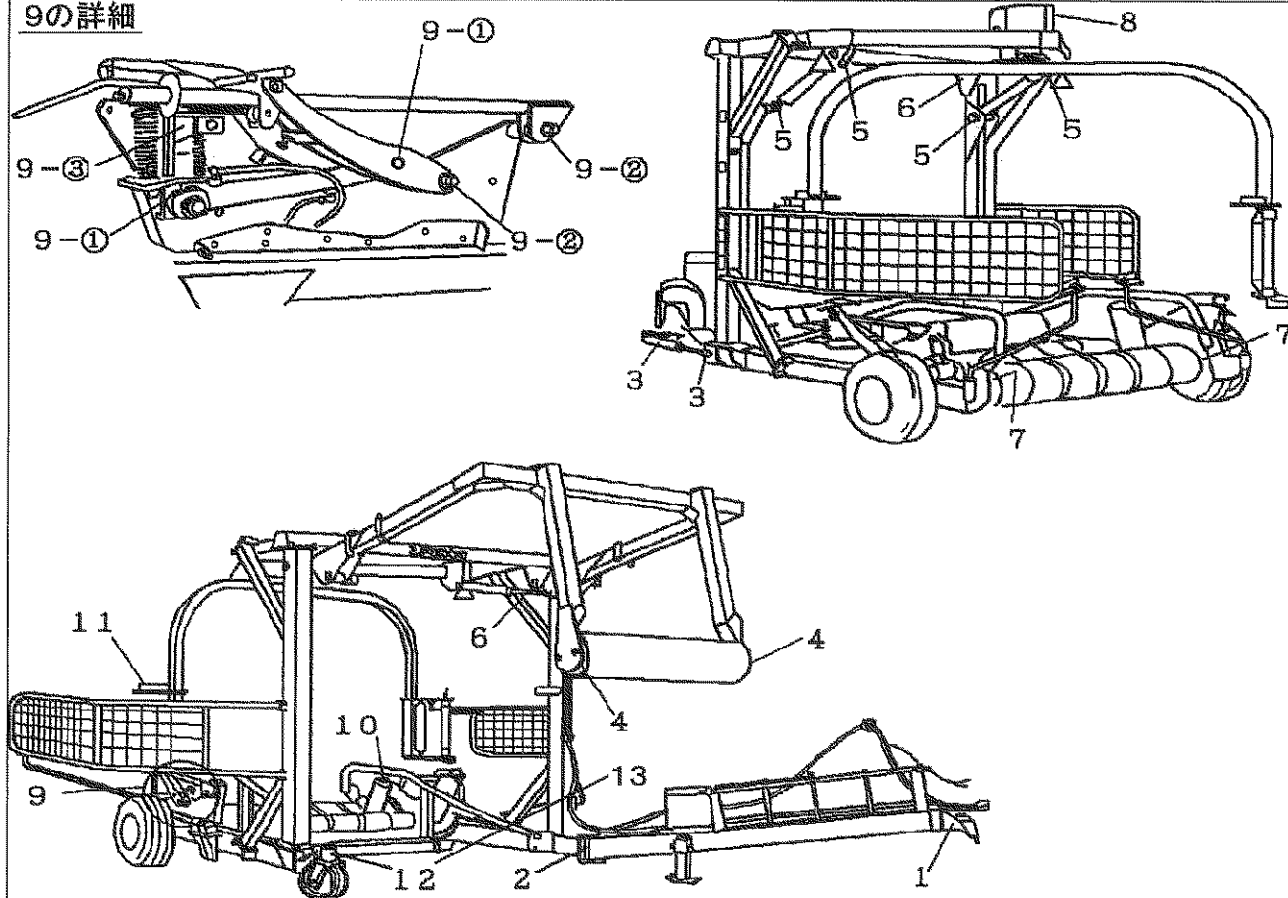
本機をトラクタから切り離したときも、必ず車輪止めで歯止めをしてください。本機が動き、思わぬ事故の原因になります。



簡単な手入れと処置

6. 各部への注油・グリスアップ

9の詳細



No.	注 油 個 所	No.	グ リ ス ア ッ プ 個 所
3	けん引かんシリンダ支点 (2ヶ所)	1	ヒッチ支点
9	③グリップカッタ摺動部 (2ヶ所)	2	けん引かん支点
10	サイドローラ上 (2ヶ所)	4	リフトローラベアリング (2ヶ所)
11	ストレッチブラケット部チェーン (2ヶ所、カバーの中)	5	リフトアームシリンダ支点 (2ヶ所)
		6	リフトアーム支点 (2ヶ所)
		7	ローラ駆動ギヤ部 (カバーの中) ローラ部ベアリング (2ヶ所)
		8	ストレッチアーム駆動ギヤ部 (カバーの中) ストレッチアームベアリング (2ヶ所、上はカバーの中)
		9	①グリップカッタシリンダ支点 (4ヶ所) ②グリップカッタ連結アーム支点 (4ヶ所)
		12	車軸
		13	ローラ軸心

簡単な手入れと処置

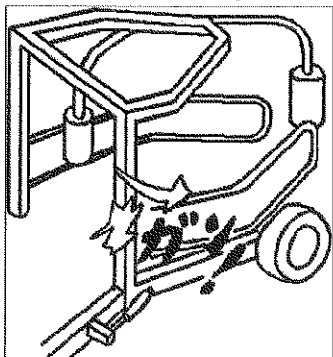
7. 長期格納時の手入れ

- 水洗いして付着した泥やほこりなどを落とし、巻付いた草などを取り除いてください。
- 乾燥後は、各回転・摺動部やチェーン類には十分注油し、錆ないようにしてください。
- 塗装のはがれた部分には、塗料を塗って錆がないようにしてください。
- 各部のボルト・ナットがゆるんでいないかを確認し、ゆるんでいるときは締めてください。
- 格納するときは、雨やほこりのかからない屋内の平坦な場所で保管してください。

使用上のご注意

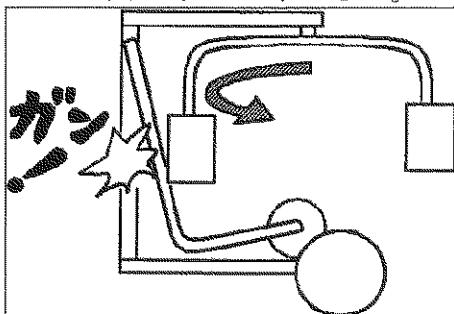
つぎのこと柄は機械の破損につながりますので、行わないようお願いします。
万一、次のこと柄を守れずに本機を使用し、破損が生じた場合は保証の対象になりません。

- ガードをたたんだ状態で、ストレッチアームを回さないでください。



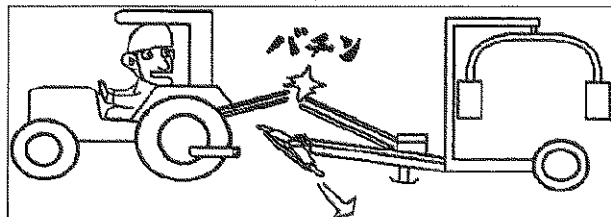
- ・ガードが破損します。

- リフトアームが適正作業位置(自動停止した位置)より後方にあるときは、ストレッチアームを回さないでください。



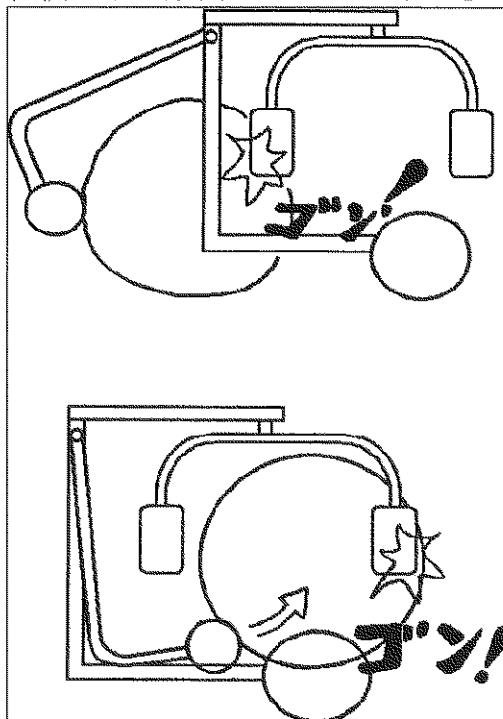
- ・ストレッチブラケットが破損します。
※コントロールボックスで自動および半自動作業しているときは安全装置が働き、ストレッチアームは回りません。

- トラクタに装着しないで、けん引かんを動かさないでください。



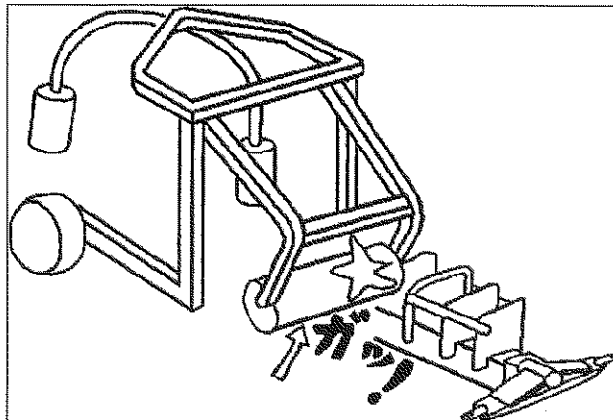
- ・油圧ホースが破損します。

- ストレッチブラケットが前後にあるときは、積み込み・放出をしないでください。



- ・ストレッチブラケットが破損します。
※自動で作業しているときは、ストレッチブラケットが適正位置に自動停止します。

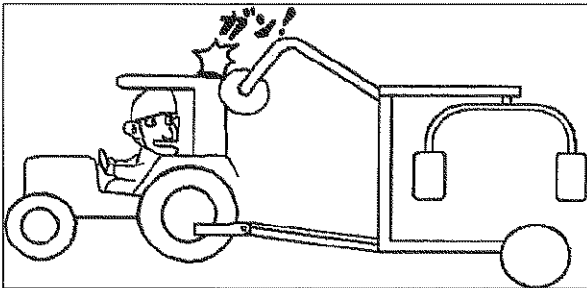
- けん引かんが移動状態にあるときは、リフトローラを上げないでください。



- ・けん引かん及び、その上部の部品が破損します。

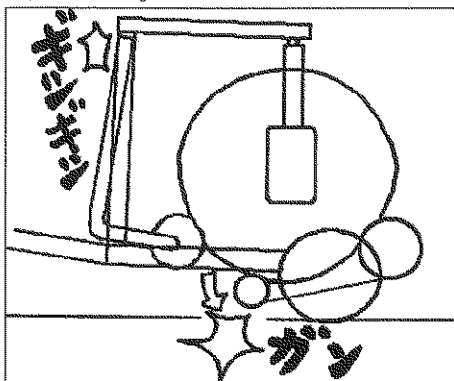
使用上のご注意

- リフトローラを上げた状態で、急旋回しないでください。



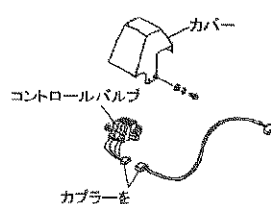
- ・リフトローラがトラクタにぶつかることがあります。

- ベールを積んだまま、長距離の移動をしないでください。

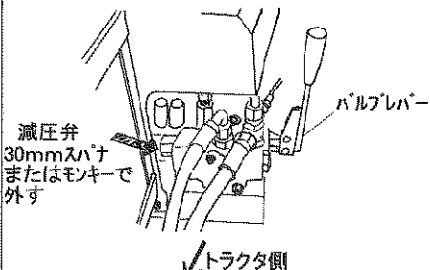
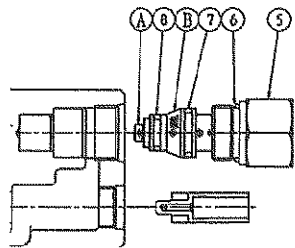


- ・テーブルベルトの破損ならびに、各部に無理な力がかかります。

不調診断

不調内容		診断	処置	参照
●リフトアーム・けん引かん・グリップカッタ・ストレッチアームが ・動かない ・ゆっくりしか動かない	油圧	●カブラのトラクタへの接続が逆である ●カブラが確実に接続されていない ●カブラのメス・オスが異なっている ●トラクタが外部油圧取出しになっていない ●トラクタの外部油圧取出しレバーが完全に引かれていない 戻っている ●トラクタの外部油圧オイルが不足している	●OUT、INを入れかえる ●確実に接続する ●合ったものに交換する ●外部油圧に切替える ●レバーを完全に引いて固定する ●規定量まで補充する	— 12 — — — —
	電気関係	●電源が入っていない (電源ランプが点灯していない) ●電源コード及びコントロールボックスコードの接続が外れている ●電源コードの⊕・⊖が逆である ●ヒューズが切れている (電源ランプが点灯しない)	●電源を入れる ●コネクタを接続する ●⊕は白、⊖は黒 正しく接続する ●電源コード部(30A)交換 コントロールボックス部(6A)交換	13 13 13 32
●コントロールボックスの自動がきかない (コントロールボックスの手動でストレッチアームは回る)		●自動作業・手動作業の切替えが手動作業になっている	●自動作業側に切替える (自動/手動切替レバーを倒して、自動作業位置にする。)	24
●コントロールボックスの手動でストレッチアーム及びグリップカッタが動かない		●自動作業・手動作業の切替えが自動作業になっている	●手動作業側に切替える 自動/手動切替レバーを倒して、手動作業側にする	27
●コントロールボックスの巻数設定ができない (数字がアップ、ダウンしない)		●自動作業・手動作業の切替えが手動作業になっている	●自動作業側に切替える 注意 巻付回数設定で設定することで記憶されます	21
●コントロールボックスの累積ペール「0」クリアができない		●自動作業・手動作業の切替えが手動作業になっている	●自動作業側に切替える	22
●コントロールボックスの操作が効かない		●コントロールバルブの電線カブラー部での接触不良	●コントロールボックスバルブ上のカバーを外して、コントロールバルブから出ている電気カブラー(4角の17P)を2~3回抜き差しし、再度きっちり差ししてください。 	—

不調診断

不 調 内 容	診 断	処 置	ページ
●リフトアームが動かない	●けん引かんが作業位置にありません	●コントロールボックスの「牽引カン」レバーを操作してけん引かんを広げてください	
●バルブレバーに圧がかかって中立に戻らない	●コントロールバルブ内に異物(ゴミ)がかみ込んでいる	(1)コントロールバルブの減圧弁を外す  減圧弁 30mmスナ またはモンキーで 外す バルブレバー トラクタ側  減圧弁⑤をゆるめ、取外します。 このとき、減圧弁スプール(A)を落とさないよう、またフィルタ(B)を変形させないよう、また汚さないよう注意してください (2)バルブレバーを手で押し引きして油を抜いて圧を取る (3)減圧弁⑤を元の通り、締付けてください。このときも減圧弁スプール(A)を落とさないよう、またフィルタ(B)を変形させないよう注意してください 以上の処置をしても再度なる場合は、トラクタの外部油圧オイルが汚れています。全量を交換ねがいます	—
●フィルムが伸びない または、伸びが一定しない	●フィルムの入れる方向が逆である ●テンションアームのフックがかかったままになっている ●ベルトがフィルム円筒面より外れている ●ベルトがプーリーから外れている ●フィルムがゴムローラを通していない	●正しい向きに入換える ●フックを外す ●正しくフィルムをセットする ●ベルトをプーリーに正しくセットする ●ゴムローラを通し、正しくセットする	19 5 20
●ラッピング中にフィルムが切れる ●テーブルローラが回転しない	●フィルムに傷がついている ●シェアボルトが切れている	●傷の部分を取り除く ●シェアボルトを交換する (M8x35 8T 半ネジ)	32

付 表

1. 主要諸元

品	名	フルオートラップマシン
型	式	WM1530AX
装	着	2Pリンケージ けん引式
方	法	カテゴリⅠ・Ⅱ兼用仕様 カテゴリⅡ専用仕様（出荷時の選択）
駆	動	トラクタ油圧（複動1系統）
適	用	トラクタ 30～88kw（40～120PS）
機	全	長 458 cm（最小時）
体	全	幅 251 cm／移動時
寸	法	335 cm／作業時
法	全	高 259 cm
質	量	1,200 kg
タ	イヤ	サイズ 22x10.00-10 12
適	用	ベールサイズ 巾120 cm x 径120 cm～φ160 cm
使	用	可能フィルム 巾 50 cm x 長さ180 cm
フ	ィ	ル ム 重 ね 率 2重または、その倍数（4重・6重）
作	業	能 率 ベール数 40～55/h

※この主要諸元は、改良により予告なく変更することがあります。

2. 主な消耗部品

品	名	部 品 コ ー ド	備 考
シェアボルト		01158 0080 35A	M8 x 35（8T）10本セット
ナイフ		57107 5555 000	
ヒューズ 6A		00900 0100 060	コントロールボックス用
ヒューズ 30A		00900 0100 300	電源コード用

3. 品牌网



付 表

4: 油圧回路図

